

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションI（ベーシック） English Oral Communication I (Basic)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>文部科学省は以前、「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていけばよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、英検の資格取得やTOEICなどによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。</p> <p>本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。中学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性がはっきりと見えてくるはず。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。</p>
--------	---

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢 ・TOEIC/英検 	学修教育目標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力で言う、「一步前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分りにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。</p> <p>[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかり取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：English Expression Elementary コミュニケーションのための英語表現レッスン：基礎会話力強化編</p> <p>著者名：David E. Bramley</p> <p>出版社：松柏社</p>	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10				5	35
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		30					50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検4級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 270点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検4級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の受け方、学習の仕方について	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	Would you help me、 please?	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	助けを求める表現/名詞の種類	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	No kidding. I can't believe it.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	紹介の仕方の表現/現在完了形 (1)	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	What are you studying at our university?	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	誘いの表現/受身形 (1)	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第8回 /	Emma-san、 welcome to our house.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第9回 /	相手をほめる表現/付加疑問文	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第10回 /	How have you found our cafeteria?	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第11回 /	驚きの表現/関係代名詞	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第12回 /	Many students have more interest in fashion.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第13回 /	同意する・同意しない表現/代名詞	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第14回 /	Oh、 that's a women-only car.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。レポート提出は必須とする。	30
第15回 /	相づちの打ち方の表現/複文	演習	試験の準備学習について	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションI (スタンダード) English Oral Communication I (Standard)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>文部科学省は以前、『英語が使える日本人』育成のための戦略構想』を提示しました。それを受けて、仕事で英語が使える人材を育成する観点から各大学は達成目標を設定することを求められています。日本を取り巻く国際環境は急速なグローバル化を見せており、日本国内のことだけを考えていけばよかった時代はすでに過去となっています。日本企業の多くが海外進出を行っている現在、グローバル化に対応する大学教育は最優先事項となっています。英語教育に関して、文部科学省は社会人になった時に使える英語を学生に教えるように要求しています。つまり、ビジネス英語を学生に習得させることを第一の目標にすることを強く求めていると言えるでしょう。一方では、英検の資格取得やTOEICなどによる数値目標が設定され、それを卒業要件として達成することを求めている大学もあります。</p> <p>本演習は基本的な英語の知識を確認することから学修を始める。高等学校で学修した英語、全般の知識をしっかりと見つめなおします。英語を理解するときに、知識として固まっている部分、まだまだ、知識として固まっていない部分を取り出してゆくことを目的とする。これからの英語学修で自分には何が足りていないかに気づいてください。その気づきから英語を学ぶべき方向性をはっきりと見えてくるはずです。焦る必要はありません。弱点があるとすれば、その改善に徹してください。</p>
----------------------------	---

キ ー ワ ー ド	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢 ・TOEIC/英検 	学 修 教 育 目 標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われています。学生には社会人基礎力と言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。本演習では文化・生活習慣・マナーの異なる人々と「内向き」志向ではなく積極的に英語を話し、聞くことにより、意思の疎通ができるようになることを学修教育目標とする。</p>
-----------------------	---	----------------------------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分かりにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。</p> <p>[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかり取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。</p>

教 科 書	参考書・リザーブブック
<p>書名：First Time Traveling Abroad 著者名：Antony J. Parker 行時 潔 長田順子 出版社：松柏社</p>	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20					40
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				5	45
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検準2級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 450点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検準2級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の受け方。学習の仕方	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	On Cloud Nine	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	シチュエーション 飛行機内では	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	San Francisco、 Here I am!	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	シチュエーション 到着後の空港では	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	A Warm Welcome	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	シチュエーション 日常会話+SMS で	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	Up and Down the Hills	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	シチュエーション 日常会話—その2	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	A Little Cold for Summer	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	シチュエーション 日常会話—その3	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	Now I'm an International Student	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	シチュエーション自己紹介では	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	I'd Like to Know a Bit More about You	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第15回 /	シチュエーション お互いの出身地などを質問し合うには	演習	試験のための準備について	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅠ（アドバンス） English Oral Communication I (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>これまで関心がなかった英語、特に英語でのコミュニケーションが学生の未来を開く一つの武器となることを理解する。またその目標までの道筋を紐解きながら、実際にネイティブスピーカーとの英語でのコミュニケーションを大切にしていく。</p> <p>コミュニケーションとはただ文法を学ぶことではなく、単語を教えることでもなく、実際に学生が「英語を勉強してみよう」と感じる意識改革あってこそ成り立つもの。まずは学生との距離を一步一步縮め、学生の将来と向き合いながら授業に取り組む。</p> <p>授業内では指定教材を軸に、聞いたことを繰り返す授業や書かれたものを読む授業ではなく、より実践的に使用できる文法から習得していきける様に進める。基礎文法ができる様になれば日記等の課題をこなし、また学生との授業内外でのコミュニケーションを大切にしながら基礎文法を春学期中にマスターすることで、秋学期へのステップへつなげる。</p>
--------	--

キーワード	<p>教員と生徒として、そして学生の将来を一緒に考えられる先輩としてのあり方</p>	学修教育目標	<p>基礎文法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在形 ・過去形 ・未来形 <p>コミュニケーションへの抵抗をなくす 自分についての簡単な質問（趣味など）を理解して回答する</p>
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 文章を作成する上で必要な公式を頭に入れ、実際に自分の状況を説明する文章を作成。例えば過去形の文章なら「I had a meeting last night」の様に過去形で作成する。公式を理解し、作文ができる様になったら実際に口に出してみる。ペアで、そしてグループでの会話を担当教員が巡回しながら確認。</p> <p>[学修上の助言] 間違ふことを恐れず、どんどん間違ふて覚えていくものだと理解すること。そして間違ふてもいい環境をクラス内で作ることがスピーキング力向上の鍵。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：Roadmap A2+</p> <p>著者名：Lindsay Warwick, Damian Williams</p> <p>出版社：Pearson Education Limited</p>	<p>ケンブリッジ出版社「Grammar In Use」</p> <p>ピアソン出版社「Focus On Grammar」</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	日常的な英語でのコミュニケーションが可能になる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	基礎のビジネス英語が出来て、将来の仕事に応用できるようになる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身の意見を持つこと。	◎
	② 働きかけ力	自分の意見を言語化する。	◎
	③ 実行力	自分自身の意見を発言し、他と共有する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	得意不得意を理解し、不得意な箇所のトレーニング。	△
	② 計画力	計画的に課題に触れることにより自身の知識を広げる。	△
	③ 創造力	学んだ知識と共に1年後、3年後をイメージした日々を過ごす。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	集団の中でも臆することなく自分自身の考えを発信すること。	○
	② 傾聴力	チーム内のメンバーとのコミュニケーションを相互通行にし、お互いを理解し合う。	○
	③ 柔軟性	予期しない問題や課題に直面した際、考え、一つ一つに対応する。	△
	④ 状況把握力	言葉で伝わる情報と自分が感じる情報を読み取り、自分自身が置かれている環境を理解し、素早く問題の解決に取り組む。	△
	⑤ 規律性	チーム内のメンバーで決めたルールを尊重し、そのルールに沿ってチームで課題に取り組む。	△
	⑥ ストレスコントロール力	他の間違いを手助けし、共に間違いがあっても助け合いながら学んでいくチーム作り。	△
4. 倫理観	① 倫理性	それぞれの倫理観の違いを理解することが国際的な倫理観を養う。	◎

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	36		23				100
評価 の 指標	知識に関する評価		31	36		5				72
	技能に関する評価		10			5				15
	応用力に関する評価					5				5
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>学んだ基礎文法を使って簡単な英会話が出来ることを大きな目標とし、スピーキングの前に簡単な文章の作成が可能となること。 冠詞等の細かいミスには今学期は触れず、基本的な構文を理解すること。「主語+動詞」など。</p>					<p>コミュニケーションには難しいというイメージを持っている学生は多いが、標準的なレベルでクリアすべきは簡単な英文が書けること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Lesson 1: オリエンテーション	授業の方法、使用テキストの紹介と英語がもたらす将来の可能性について 14週目の発表グループについての説明	●復習 グループで将来の夢の仕事（ドリームジョブ）を英語で調べる	90
第2回 /	Lesson 2: Getting to know you Roadmap A2+: P6、P7 <文法>一般動詞、現在形	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト1：基礎の英単語	●予習 Roadmap A2+: P6、P7の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P6、P7からの課題	90
第3回 /	Lesson 3: Successful people Roadmap A2+: P8、P9 <文法>頻度を表す副詞 肯定・否定・疑問文	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト2：第2回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P8、P9の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P8、P9からの課題	90
第4回 /	Lesson 4: A new lifestyle Roadmap A2+: P10、P11 <文法>現在形と現在進行形の違い	授業の目標とゴールを設定。文法説明と英語で変える将来について ●小テスト3：第3回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P10、P11の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P10、P11からの課題	90
第5回 /	Lesson 5: One of those days Roadmap A2+: P14、P15 <文法>過去形	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト4：第4回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P14、P15の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P14、P15からの課題	90
第6回 /	Lesson 6: You're never too old Roadmap A2+: P16、P17 <文法>過去形の否定文、疑問文	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト5：第5回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P16、P17の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P16、P17からの課題	90
第7回 /	Lesson 7: Unusual tastes Roadmap A2+: P18、P19 <文法>可算名詞・不可算名詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト6：第6回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P16、P17の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P16、P17からの課題	90
第8回 /	Lesson 8: Urban escapes Roadmap A2+: P22、P23 <文法>比較級	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト7：第7回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P22、P23の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P22、P23からの課題	90
第9回 /	Lesson 9: A place to stay Roadmap A2+: P24、P25 <文法>最大級	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト8：第8回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P24、P25の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P24、P25からの課題	90
第10回 /	Lesson 10: Never ever Roadmap A2+: P26、P27 <文法>現在完了	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト9：第9回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P26、P27の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P26、P27からの課題	90
第11回 /	Lesson 11: Special days Roadmap A2+: P30、P31 <文法>未来形「be going to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト10：第10回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P30、P31の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P30、P31からの課題	90
第12回 /	Lesson 12: Planning events Roadmap A2+: P32、P33 <文法>未来形「will」	文法説明、グループワーク後に特別アクティビティーと日本人教員との時間 ●小テスト11：第11回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P32、P33の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P32、P33からの課題	90
第13回 /	Lesson 13: Rules of the race Roadmap A2+: P34、P35 <文法>助動詞「can」「have to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト12：第12回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P34、P35の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P34、P35からの課題	90
第14回 /	Lesson 14: 発表	●グループ発表 1グループ：10分（Q&Aを含め） テーマ：Our dreams	●発表	90
第15回 /	Lesson 15: 復習 <テスト対策>	次週開催のテストの対策と質疑応答。	●復習	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（ベーシック） English Oral Communication II (Basic)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。</p> <p>本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。</p>	
	キーワード	学修教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢 ・TOEIC/英検 	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていました。学生には社会人基礎力で言う、「一歩前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。</p>	

授業科目の概要及び学修上の助言

[概要] 最初に会話を聞いた後、発音の分かりにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。

[学修上の助言] 英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「役立つ英語(基礎)」、「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかりと取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：English Expression Elementary コミュニケーションのための英語表現レッスン：基礎会話力強化編</p> <p>著者名：David E. Bramley</p> <p>出版社：松柏社</p>	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20					40
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				5	45
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検3級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 300点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検3級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の受け方・学習の仕方について	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	Here、 I can see no emergency phones.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	確認の表現/受身形（2）	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	Students won't be able to learn English.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	会話を始める表現/ to 不定詞	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	Tell me about Hearn in one word.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	希望や願いの表現/接続詞	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	Don't ask me about it、 either.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	心配して尋ねる表現/命令文	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	But farmers need this rain badly.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	推量・推測の表現/感嘆文	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	How can they keep studying all day long?	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	会話のつながりの表現（1）/感覚動詞	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	I feel more at home in reading in English.	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第15回 /	会話のつながりの表現（2）/動名詞	演習	試験準備学習について	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ(スタンダード) English Oral Communication Ⅱ (Standard)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>オーラルコミュニケーションⅠで提示した学修教育目的を基礎とし、その目的をさらに強化していきたいと考えています。2013年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表しました。これは東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に全面実施を目指す将来の新たな英語教育に向けた計画です。この計画ではグローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとしています。</p> <p>本演習では、オーラルコミュニケーションⅠでの演習を通して、英語を理解するときに自分に不足していた知識をよく確認した上で、それらの知識を土台にして、応用・発展的に英語を理解しようとする姿勢を育むことを目的とする。</p>					
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル時代の英語 ・英語を使う時の「外向き」姿勢 ・TOEIC/英検 	学修教育目標	<p>今の学生は「内向き」志向と言われ、グローバル時代の学生像とは逆の姿を示していると言われていました。学生には社会人基礎力と言う、「一步前に踏み出す力」が要求されていると言えるでしょう。オーラルコミュニケーションⅠで培った英語を使う時の「外向き」の姿勢、すなわち英語使用への積極的な気持ちをさらに大きく持って、秋学期は平易な英語を使って自分の考え、意見をしっかりと発表できることを学修教育目標とする。</p>			

授業科目の概要及び学修上の助言

[概要]	最初に会話を聞いた後、発音の分かりにくい単語があれば正しい発音をしっかりと学修し、その後で二人一組のペアになって役割を決め会話をしてもらいます。会話演習の後、「基本形」、「Quiz」、そして「練習問題」のそれぞれについて学修内容を理解し、確認して行きます。尚、これらの学修内容から学期末試験の問題を作成します。
[学修上の助言]	英語学習によって身に付いた知識も、知識だけで終わらせるのであれば何の意味もありません。使える英語にするために、スピーキングとリスニングで英語の構造と音を学ぶために繰り返しの練習を徹底してください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「役立つ英語(基礎)」・「知って得する英語(応用)」では技能としての「読む・書く」そして文法をしっかりと、学修してください。英語を「話す・聞く」の技能を向上させるためには基礎的な文法の知識が基礎となります。英語力を測定する基準はTOEIC、英検など、様々ですが、その中でも、TOEICはビジネス英語に基づいて出題されていますので、本演習をしっかりと取り組むことでTOEIC対策に役立ちます。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：First Time Traveling Abroad/ 著者名：Antony J. Parker 行時 潔 長田順子 出版社：松柏社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	基本的な英語を使って、積極的にコミュニケーションを取ることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	基本的な英語を使って、自分の意見を正しく発信できる。	○
	② 傾聴力	基本的な英語を使っての日常会話では相手の言っている内容を正しく理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	アメリカの生活習慣、文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20				5	45
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20					40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英検2級に合格することができる。あるいは、TOEIC (L&R) 500点を取得できる。					時間制限を設けず、辞書を使用しながら、英検2級の設問を解き全問、正解を導き出すことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の受け方・学習の仕方	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第2回 /	Getting around La-La Land	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第3回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その1	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第4回 /	You Sure Like Sports!	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて演習問題を再度、解いてみる。	30
第5回 /	シチュエーション 日常会話—スポーツ	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第6回 /	At a Restaurant	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第7回 /	シチュエーション レストランでは	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第8回 /	I'm Not Feeling Well	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第9回 /	シチュエーション 体調をくずしたら	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて演習問題を再度、解いてみる。	30
第10回 /	Day Trip to San Diego and Tijuana	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第11回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その2	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第12回 /	Let's Hit the Beach!	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第13回 /	シチュエーション 日常会話—観光 その3	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第14回 /	Buying Gifts	演習	次回、学修する教科書のすべての英文を10回づつ、音読する。授業で指摘した基本事項を踏まえて、演習問題を再度、解いてみる。	30
第15回 /	シチュエーション ショッピングでは	演習	試験準備学習について	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を守るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーションⅡ（アドバンス） English Oral Communication II (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>春学期で学んだ基礎文法、基礎英単語をより実践で使える様にトレーニングを行う。頭にある英語が口から出てくるまでの道のりをいかに短縮するか、また英会話で大切な「推測する」という能力についても養うことを目指す。聞き取れなかった単語も会話の中から推測、イメージすることでコミュニケーションにギャップをもたらさない。またカジュアルなシチュエーションでの簡単な会話がクラス内でも頻繁に起きることをゴール設定し、英語＝難しいというイメージを完全に振り払うことを学期目標とする。</p> <p>知識の面ではこれまでの文法からさらにステップアップし、長文読解や徐々にアカデミックな学習を取り入れていく。短文なら理解できるが長文になると解けないという状況を事前に把握し、ゆっくり慣れていく。</p>
--------	--

キーワード	徐々にアカデミックな学習も取り入れることで学生が自信を持って発言できるレベルに	学修教育目標	<p>基礎文法の習得 コミュニケーション能力のブラッシュアップ（個人のショートプレゼンの練習・実施） 長文読解 スピーキングのテクニック ・接続詞 ・起承転結</p>
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>[概要] 文法通りに英作する時間、そして文法は一旦考えず、レスポンススピードに意識を置いた授業を取り入れる。秋学期では実際に「話せる自信」を獲得することに着目。 [学修上の助言] 「間違ふことを恐れず」から「会話のスピードを意識する」という目標に切り替えることが自然なコミュニケーションへの第一歩。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書名：Roadmap A2+ 著者名：Lindsay Warwick、Damian Williams 出版社：Pearson Education Limited</p>	<p>ケンブリッジ出版社「Grammar In Use」 ピアソン出版社「Focus On Grammar」</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	日常的な英語でのコミュニケーションが可能になる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	基礎のビジネス英語が出来て、将来の仕事に応用できるようになる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身の意見を持つこと。	◎
	② 働きかけ力	自分の意見を言語化する。	◎
	③ 実行力	自分自身の意見を発言し、他と共有する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	得意不得意を理解し、不得意な箇所のトレーニング。	△
	② 計画力	計画的に課題に触れることにより自身の知識を広げる。	○
	③ 創造力	学んだ知識と共に1年後、3年後をイメージした日々を過ごす。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	集団の中でも臆することなく自分自身の考えを発信すること。	◎
	② 傾聴力	チーム内のメンバーとのコミュニケーションを相互通行にし、お互いを理解し合う。	○
	③ 柔軟性	予期しない問題や課題に直面した際、考え、一つ一つに対応する。	○
	④ 状況把握力	言葉で伝わる情報と自分が感じる情報を読み取り、自分自身が置かれている環境を理解し、素早く問題の解決に取り組む。	△
	⑤ 規律性	チーム内のメンバーで決めたルールを尊重し、そのルールに沿ってチームで課題に取り組む。	○
	⑥ ストレスコントロール力	他の間違いを手助けし、共に間違いがあっても助け合いながら学んでいくチーム作り。	△
4. 倫理観	① 倫理性	それぞれの倫理観の違いを理解することが国際的な倫理観を養う。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	36		23				100
評価 の 指標	知識に関する評価		31	36		5				72
	技能に関する評価		10			5				15
	応用力に関する評価					5				5
	チームワークに関する評価					3				3
	関心・意欲に関する評価					5				5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>春学期との違いは「アカデミックな学習の取り入れ」。またこれまで学んだ基礎文法を使ってスピーキングに取り組み、小さな自信を全学生が持てる様に指導。 英語は間違っ覚えて覚えるもの。正しく話すことの前に発言すること。これがオーラルコミュニケーションと英語検定テストの違いであり、気軽に「Hi、 how' re you? Are you alright?」などの言葉が口から出ることが目標。</p>					<p>簡単な文章で構成された日記を完成させ、さらに少しずつ口から英語を発し始めることが大切な目標。考えながらの英語のコミュニケーションでも現状は良し。その一歩目から次のステップに必要な自信を学生と作り上げていく。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	Lesson 16: オリエンテーション	英語を使つての未来と学生の可能性について 14週目の発表グループについての説明	●復習 春学期に学習した文法・単語の復習	90
第2回 /	Lesson 17: Appearances Roadmap A2+: P40、P41 <文法> 形容詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト1：第1回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P40、P41の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P40、P41からの課題	90
第3回 /	Lesson 18: Shopping tips Roadmap A2+: P42、P43 <文法> 助動詞「should」「shouldn't」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト2：第2回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P42、P43の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P42、P43からの課題	90
第4回 /	Lesson 19: A busy week Roadmap A2+: P48、P49 <文法> 未来形「be going to」「will」「plan to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト3：第3回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P48、P49の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P48、P49からの課題	90
第5回 /	Lesson 20: A quiet weekend Roadmap A2+: P50、P51 <文法> 助動詞「might」「might not」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト4：第4回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P50、P51の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P50、P51からの課題	90
第6回 /	Lesson 21: The building project Roadmap A2+: P54、P55 <文法> 「too」「enough」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト5：第5回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P54、P55の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P54、P55からの課題	90
第7回 /	Lesson 22: Where I grew up Roadmap A2+: P56、P57 <文法> 「used to」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト6：第6回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P56、P57の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P56、P57からの課題	90
第8回 /	Lesson 23: A favorite room Roadmap A2+: P58、P59 <文法> 前置詞と冠詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト7：第7回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P58、P59の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P58、P59からの課題	90
第9回 /	Lesson 24: Getting around Roadmap A2+: P64、P65 <文法> 接続詞「because」「so」	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト8：第8回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P64、P65の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P64、P65からの課題	90
第10回 /	Lesson 25: Dream holidays Roadmap A2+: P66、P67 <文法> 動名詞と不定詞	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト9：第9回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P66、P67の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P66、P67からの課題	90
第11回 /	Lesson 26: Good friends Roadmap A2+: P70、P71 <文法> 現在完了形 継続	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト10：第10回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P70、P71の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P70、P71からの課題	90
第12回 /	Lesson 27: What's on? Roadmap A2+: P72、P73 <文法> 現在完了形 完了	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト11：第11回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P72、P73の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P72、P73からの課題	90
第13回 /	Lesson 28: School days Roadmap A2+: P74、P75 <文法> could、couldn't	授業の目標とゴールを設定。当授業のテーマを紹介するウォームアップ活動。文法説明、練習問題、グループワーク（ディスカッション、ライティング、発表）、教員とのコミュニケーション授業 ●小テスト12：第12回授業の内容	●予習 Roadmap A2+: P74、P75の英単語 ●復習と課題 Roadmap A2+: P74、P75からの課題	90
第14回 /	Lesson 29: 発表	●グループ発表 1グループ：10分（Q&Aを含め） テーマ：My hometown	●発表	90
第15回 /	Lesson 30: 復習 <テスト対策>	次週開催のテストの対策と質疑応答。	●復習	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ韓国語（入門） Korean Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	韓国語は日本語と文法構造が大変似ているので日本語を母国語にしている人にとって学びやすい言語の一つである。最初はハングル文字の発声方法から始め韓国語の音や文に慣れる練習を行う。それから簡単な会話のやり取りを覚えることに重点をおいて演習を進めていく。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	ハングル文字の仕組み 音読・訓読 文法	学修教育目標	役に立つ韓国語入門終了後には、ハングル検定5級に合格することを目標としている。			
-------	---------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：ワンアクション韓国語 著者名：朴ユギョン、仲島淳子、金美順、徐ミョンファン 出版社：朝日出版社			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。				◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	外国語を身に付け活動領域を広める。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	新しい言葉を学習する、ということから積極的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。				◎
	② 計画力	韓国語の仕組み、文字の意味、発音の形態、文法の形成など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	新たなる知識の習得に対する姿勢を学ぶことができる。				◎
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40	10				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				20					20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20	10				30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解し基礎会話ができることを望む。					韓国語の仕組みや発音、文法などをしっかり理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	韓国語の仕組みを学ぶⅠ（ハングルの発音を学ぶ）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	韓国語の仕組みを学ぶⅡ（ハングルの文法を学ぶ）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	子音、母音、激音と濃音、そして重母音を組み合わせた単語を覚える。	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	ハングルの読み方・書き方を復習する	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	テキスト第1課を学ぶⅠ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	テキスト第1課を学ぶⅡ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	テキスト第2課を学ぶⅠ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	テキスト第2課を学ぶⅡ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第9回 /	テキスト第3課を学ぶⅠ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第10回 /	テキスト第3課を学ぶⅡ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第11回 /	テキスト第4課を学ぶⅠ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第12回 /	テキスト第4課を学ぶⅡ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第13回 /	テキスト第5課を学ぶⅠ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第14回 /	テキスト第5課を学ぶⅡ（文法・会話）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第15回 /	韓国語基礎総整理	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する韓国語（応用） Korean Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	日本は歴史的にも地理的にも韓国と密接な関係を持っている。これからの21世紀にはあらゆる分野において両国の関係は一層深まっていくと考えられる。この授業では役に立つ韓国語 I に引き続き、文法の基礎をしっかりと身につけながら会話の演習を行い、一番近い国である韓国の文化や言葉を理解することを目指していく。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	挨拶 自己紹介 作文	学修教育目標	役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定4級に合格することを目標としている。			
-------	------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：ワンアクション韓国語 著者名：仲島淳子、金美順 出版社：朝日出版社	なし					
--	----	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化に対する理解を深めることでグローバル社会において活躍の場所を世界に広める。				◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	外国語を身に付け活動領域を広める。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	新しい言葉を学習する、ということから自ら積極的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	新たなる知識の習得し会話ができる姿勢を学ぶことができる。				◎
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				30	20				50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
読み書きに支障のないレベルまでに達し簡単な会話のできる韓国語能力検定試験4級水準まで進める。					読み書きがしっかりできて簡単な会話のできるレベルまで進む。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	韓国語の仕組を学ぶ（入門総整理）	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第2回 /	テキスト第5課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第3回 /	テキスト第6課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第4回 /	テキスト第7課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第5回 /	テキスト第8課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第6回 /	テキスト第9課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第7回 /	テキスト第10課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第8回 /	テキスト第11課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第9回 /	テキスト第12課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第10回 /	テキスト第13課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第11回 /	テキスト第14課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第12回 /	テキスト第15課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第13回 /	テキスト第16課	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第14回 /	韓国語で作文作成	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120
第15回 /	韓国語会話総整理	講義・応用演習	予習：60分、復習：60分	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることができるようになる。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話をできるようになる。			
-------	----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし						
----	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	アプリで中日両言語のコミュニケーションできる力を養成する。	△
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	中国語の基礎力を養成する。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	積極的に身につけた中国語で困っている中国人を助けたり、交流したりする。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。	◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 主体性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音	口頭で発音の説明と練習をする	発音と挨拶用語を復習する	中国について の紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20
第2回 /	第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第3回 /	第一課 名詞文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第4回 /	第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第5回 /	第二課 疑問詞疑問文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 /	筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）①	第1課と第2課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第7回 /	第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第8回 /	第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第9回 /	第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第10回 /	第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第11回 /	筆記テスト②（第三課～第四課）	第3課と第4課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表

学修内容（上段）・授業内評価（下段）		授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第12回 ／	第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現 並列の表現 存在場所を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第13回 ／	第五課 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第14回 ／	第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第15回 ／	第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する中国語（応用） Chinese Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。			
-------	----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

なし						
----	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	アプリで中日両言語のコミュニケーションできる力を養成する。				△
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	中国語の基礎力を養成する。				◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	積極的に身につけた中国語で困っている中国人を助けたり、交流したりする。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。				◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / /	第7課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第2回 / /	第7課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第3回 / /	第8課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第4回 / /	第8課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第8課の練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第5回 / /	筆記試験① 内容範囲：第7課と第8課 口頭試験①	第7課と第8課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 / /	第9課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第7回 / /	第9課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第8回 / /	第10課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第9回 / /	第10課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第10回 / /	筆記試験② 内容範囲：第9課と第10課	第9課と第10課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 文型などの表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第12回 /	第11課 ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第13回 /	第12課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第14回 /	第12課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第15回 /	第12課 ⑥練習問題をやる 復習、口頭試験の練習まとめ	8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第11課と第12課と口頭試験内容を復習する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ英語（基礎） English Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	英語は現代社会では、必須の基礎知識となっている。本講義では、これまでに修得した英語の基礎的な知識を土台にして、誰もがその名を知っているような企業の歴史的背景、経営戦略、企業努力などを平易な英文でまとめたものを読み、基本的な文法や語法、語彙をしっかりと定着させ、英文読解力の養成をはかる。また英語に慣れ親しむために日常的に使われる単語、熟語を習得する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	英語はコミュニケーションの道具である。	学修教育目標	(1) 英語という言葉に強い関心をもつ。 (2) 日本とは違う文化に関心を持つ。 (3) 英文の構造や文法を理解しながら、英文を読むことができる。 (4) 英語で書かれたか情報の内容や要旨を説明できる。 (5) 英語を通して幅広い視野を身に付けることができる。			
-------	---------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

必ず予習・復習をおこなうこと。 インターネットを駆使すること。 私語をしない。寝ない						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：English Expression Pre-Intermediate/ コミュニケーションのための英語表現レッスン：自己表現力強化編 著者名：David E. Bramley 出版社：松柏社	なし					
--	----	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	人知性、教養を身につけ社会に貢献できる	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	専門的な知識・技能を有し、実践できる	○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	幅広い視野をもって多角的に物事を評価・判断できる	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。	◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。	◎
	③ 実行力	自主性をもつ。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力	◎
	② 計画力	段取りを考える。	◎
	③ 創造力	新しいものを作る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識	◎
	② 傾聴力	集中力と考える力	◎
	③ 柔軟性	意味の多面性	◎
	④ 状況把握力	臨機応変	◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。	○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25		20					45
	技能に関する評価		5		5					10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				5	45
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らコミュニケーションの機会をつくる。					コミュニケーションに興味をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の進め方、予習の仕方等についての説明	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第2回 /	Shall we go to America together to learn English?	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第3回 /	譲歩の表現／受動態	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第4回 /	I'm a little excited about the orientation!	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第5回 /	相手をほめる表現／現在完了形（1）	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第6回 /	Is a bank card the same as a credit card?	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第7回 /	内容を確認する表現／助動詞	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第8回 /	I'm planning to rent a suitcase from the rental shop.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第9回 /	推量する表現／関係代名詞	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第10回 /	The captain of this plane is saying something!	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第11回 /	不満を述べる表現／複文（1）	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第12回 /	This form is an "Immigration form."	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第13回 /	相手を誘う表現／複文（2）	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第14回 /	How do you like the salad bars they have?	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第15回 /	考えや希望を述べる表現／名詞節	演習	試験準備学習について	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する英語（応用） English Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	英語は現代社会では、必須の基礎知識となっている。本講義では、これまでに修得した英語の基礎的な知識を土台にして、誰もがその名を知っているような企業の歴史的背景、経営戦略、企業努力などを平易な英文でまとめたものを読み、基本的な文法や語法、語彙をしっかりと定着させ、英文読解力の養成をはかる。また英語に慣れ親しむために日常的に使われる単語、熟語を習得する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	英語はコミュニケーションの道具である。	学修教育目標	(1) 英語という言語に強い関心をもつ。 (2) 日本とは違う文化に関心を持つ。 (3) 英文の構造や文法を理解しながら、英文を読むことができる。 (4) 英語で書かれた情報の内容や要旨を説明できる。 (5) 英語を通して幅広い視野を身に付けることができる。			
-------	---------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

必ず予習・復習をおこなうこと。 インターネットを駆使すること。 私語をしない。寝ない。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：English Expression Pre-Intermediate/ コミュニケーションのための英語表現レッスン：自己表現力強化編 著者名：David E. Bramley 出版社：松柏社	なし					
--	----	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）			
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	人知性、教養を身につけ社会に貢献できる			○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。			◎
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。			◎
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	専門的な知識・技能を有し、実践できる			○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	幅広い視野をもって多角的に物事を評価・判断できる			○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける			○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。			◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。			◎
	③ 実行力	自主性をもつ。			◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力			◎
	② 計画力	段取りを考える。			◎
	③ 創造力	新しいものを作る。			◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識			◎
	② 傾聴力	集中力と考える力			◎
	③ 柔軟性	意味の多面性			◎
	④ 状況把握力	臨機応変			◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。			○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。			○
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー			○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20				5	45
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				5	45
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らコミュニケーションの機会をつくる。					コミュニケーションに興味をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の進め方、予習の仕方等についての説明	演習	各 Unit を予習のこと。	60
第2回 /	How was your first class、 Sakura?	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第3回 /	受け答えの表現 / to 不定詞 (1)	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第4回 /	Mr. Carpenter said “grace” before eating.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第5回 /	聞き返しの表現 / 接続詞	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第6回 /	English is a very important foreign language in Korea.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第7回 /	会話をつなぐ表現 / 現在分詞・動名詞	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第8回 /	I had tacos for the first time in my life!	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第9回 /	肯定・否定の表現 / 現在完了形 (2)	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第10回 /	I took me more than a week to prepare my presentation.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第11回 /	疑いを述べる表現 / to 不定詞 (2)	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第12回 /	They may sell these potatoes by the pound.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第13回 /	数量の表現 / 命令文	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第14回 /	I've long wanted to visit Disneyland in America.	演習	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	60
第15回 /	驚きの表現 / 再帰代名詞	演習	試験準備学習について	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばI（ベーシック） Japanese Language I (Basic)	2単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N3、N2 の合格も目標とする。			
-------	------------------	--------	--------------------------	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知る事。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

なし	書名：日本語能力試験 公式問題集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社					
----	--	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	60
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第10回 /	敬語	尊敬語、謙讓語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第14回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第15回 /	聴解力の指導	聴解力、読解力の向上のためも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことばI（スタンダード） Japanese Language I (Standard)	2単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。	
	正しい日本語、理解能力、表現能力	日本語能力試験N2の合格も目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書名：日本語能力試験 公式問題集 N2 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	60
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N4 対応問題研究	演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第10回 /	敬語	尊敬語、謙讓語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第14回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第15回 /	聴解力の指導	聴解力、読解力の向上のためも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたば I（アドバンス） Japanese Language I (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。	
	正しい日本語、理解能力、表現能力	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ることを勧める。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、専門教育科目につなぐ。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書名：日本語能力試験 公式問題集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	その団体のルール、慣習の理解	◎
4. 倫理観	① 倫理性		○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
評価の要点										
評価方法		行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	レ	文法等の設問の他に、論文読解力の比重も高める。							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥	レ								
小テスト	①	レ	本学期限内4回実施予定							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥	レ								
レポート	①	レ	本学期限内3回実施予定							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥	レ								
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	授業中の問いかけに対する口述回答を評価する。							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥									
作品 (成果物)	①	レ	自己紹介、郷里紹介等を評価する。							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥									
ポートフォリオ	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
その他	①	レ	積極的回答、質問等受講態度も評価する。							
	②									
	③	レ								
	④									
	⑤	レ								
	⑥	レ								
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると85点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると70点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	この授業の目的、目標を説明 受講生の「自己紹介」を口述、論述させる。 受講生個々の能力の把握	日本の時事問題に広く関心を持つこと	60
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	60
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句	常用漢字（表）の習得 音・訓 50音表 母音・子音 演習	同上	60
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第5回 /	文法、文型	演習	同上	60
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	60
第7回 /	文法 品詞	演習	同上	60
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	60
第9回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	演習	同上	60
第10回 /	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語 演習	同上	60
第11回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	60
第13回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	演習	同上	60
第14回 /	論文（作文）作成指導	文の組み立て、文章の文法 演習	同上	60
第15回 /	聴解力の指導	聴解力、読解力の向上のためにも考慮しつつ、全講義を通じて ・日本の風土・文化 ・母国の風土・文化 ・日本・母国の地理 ・日本の近現代史 ・日本の国体、政体 ・日本の経済体制 などを学ぶ。	同上	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのことはⅡ（ベーシック） Japanese Language II (Basic)	2単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。	
	正しい日本語、理解能力、表現能力	日本語能力試験 N3、N2 の合格も目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知る事。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N3 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意文作成	日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	70
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	演習	同上	70
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	演習	同上	70
第15回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこことばⅡ（スタンダード） Japanese Language II (Standard)	2単位	選択必修	演習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。					
	キーワード	正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標	日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知る事。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。				◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。				◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	社会団体への加入計画				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識				◎
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2		2	9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意作文	日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	70
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	演習	同上	70
第6回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N3 対応問題研究	演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	演習	同上	70
第15回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 日本語リテラシー	にほんのこたばⅡ（アドバンス） Japanese Language II (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	留学生である外国人学生が、大学講義・演習を受講するには、ある程度の高度な日本語能力を持ち合わせなければならない。そのため、少人数クラス編成で、個人個別指導形式で日本語指導をする。	
	キーワード 正しい日本語、理解能力、表現能力	学修教育目標 日本語能力試験 N2、N1 の合格も目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

幅広い分野の日本語語彙、文法、文章、会話力を醸成させる。そのため自ら多くの書物を読み、日々のニュースも知ること。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学科関連専門用語を習得させ、2年次以降の専門教育科目につなぐ。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：日本語能力試験 公式問題集 第二集 N1 著作・編集：独立行政法人 国際交流基金 発行：凡人社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	グローバル経済の現実を理解する。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	経営・経済の専門用語を習得する。	◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	日本経済の知識を習得する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	日本の社会のテレビニュースなどによる理解力を高める。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における活動への参加の意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	社会経済活動への積極的加入	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	社会団体への加入計画	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	社会団体の現実の認識	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	その団体のルール、慣習の理解	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	10	10	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10	5	5	3		2	60
	技能に関する評価		10	5	3	3			3	24
	応用力に関する評価		5			2				7
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		5		2		2			9
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 70 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 決意作文	日本語能力試験について	日本の時事問題に広く関心を持つこと	70
第2回 /	第1回の論述文の修正添削等	演習	同上	70
第3回 /	漢字練習読み方、書き方 語彙、慣用句 小テスト	演習	同上	70
第4回 /	日本語能力試験 N2 対応問題研究	演習	同上	70
第5回 /	文法、文型 慣用句	演習	同上	70
第6回 /	本語能力試験 N2 対応問題研究	演習	同上	70
第7回 /	文法 品詞 同意語 小テスト	演習	同上	70
第8回 /	文法 接続詞、助詞等	演習	同上	70
第9回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	演習	同上	70
第10回 /	敬語 小テスト	演習	同上	70
第11回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70
第12回 /	論文（長文）読解力	演習	同上	70
第13回 /	日本語能力試験 N1 対応問題研究	演習	同上	70
第14回 /	聴解力の指導	演習	同上	70
第15回 /	論文（作文）作成指導	演習	同上	70

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	スポーツ方法学 I Sports Method Study I	1単位	必修	実習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>スポーツといえば、とにかく身体を動かし汗をいっぱい流せばよいと考えている人が多いのではないかと思います。確かに、身体を動かすことが基本になるが、その場さえ楽しければそれでよいといった楽しみ方はスポーツではなく、どちらかという「遊び」と考えるであろう。</p> <p>本授業においては、スポーツそのものが持ち合わせている特性やルールを正しく理解し正しく活動することを目的とする。また、スポーツを通して培った内容を日常生活においても実践していくことを目的とする。</p>					
キーワード	スポーツ 方法学 健康	学修教育目標	<p>スポーツの特性やルールを正しく理解し、自らが積極的に体を動かし活動する中で、個々のレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すことができる。また、すばらしい人間関係を構築し、生涯を通して真摯にスポーツを楽しみ、スポーツで培った内容を日常生活で実践していく能力や態度を養うことができる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>現代社会における健康の課題を明らかにし、スポーツの果たす健康への効果を理解し、健康科学に関する基礎的な知識を身に付け、社会生活において実践していきます。また、スポーツ活動を実践していく中で、健康のための適切な身体活動量を維持するとともに、キャリアスキルとしてのコミュニケーションも促進していきます。</p> <p>事前学習として、授業で扱うスポーツのルールを学んでおく。また、基本的なスキルについてもインターネットの動画などを参考に学んでおく。積極的なスポーツ活動を行うにあたり</p> <p>普段の生活から運動量を確保しておく。</p> <p>事後学習として、授業で実践したスポーツスキルの定着のための復習を行う。</p> <p>事前・事後学習共に、講義時間と同程度の時間を要する。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
健康と福祉について、及び、スポーツと健康についての関連性を予備知識として身につけていることが望ましい。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
なし			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	スポーツ教室、スポーツ企画の運営・経営の基礎的な知識を身に付ける。			△	
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。			△	
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自らが主体となり、ユーザビリティの高いスポーツを企画・実践する。			○	
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	プレゼンターとしての自覚、意思を明確に持つ。			◎	
	② 働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。			○	
	③ 実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。			◎	
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代社会における健康の課題を明らかにする。			○	
	② 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。			△	
	③ 創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。			◎	
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。			△	
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。			○	
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。			△	
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。			△	
	⑤ 規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。			◎	
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する。			○	
4. 倫理観	① 倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。			◎	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20							20
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		20			10				30
	チームワークに関する評価		10			15				25
	関心・意欲に関する評価					15				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自己や仲間の挑戦する課題を設定し、その課題達成に向けて立案した計画を実行・修正できる。					人間のスポーツ行動を運動学的見地で分析を行い、演習を通して未解決の問題について探求する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは、授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項、整列・体操、ゴルフの特性	講義	ゴルフの基礎知識を学修しておく	30
第2回 /	ゴルフ 正しいスイングの習得 グリップの握り方、スタンスの取り方、スイング動作の説明（振り出し、テイクバック、ミート、フォロースルー）、振り子運動の説明	講義・実習	授業で習得した内容を復習する	30
第3回 /	7番アイアンのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第4回 /	7番アイアンのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第5回 /	P（ピッチング）のスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第6回 /	9番アイアンのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第7回 /	5番アイアンのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第8回 /	アイアンのスイング総括 スキルテスト	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第9回 /	ドライバーのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第10回 /	ドライバーのスイング習得 スキル・意欲・努力・反復	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第11回 /	ドライバーのスイング総括 スキルテスト	実習	授業で習得した内容を復習する	30
第12回 /	仮想コースでプレーする。（コースを想定した、クラブ選択やボールコースと飛距離の確認、特別ルールを設定し、打撃練習場において仮想コースでプレーし、ゴルフのルールやマナーを習得する。） スキル・意欲・努力・反復	実習	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30
第13回 /	仮想コース スキル・意欲・努力・反復	実習	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30
第14回 /	仮想コース スキル・意欲・努力・反復	実習	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30
第15回 /	仮想コース スキル・意欲・努力・反復	実習	・ゴルフのルールを学修しておく ・ゴルフのマナーやエチケットを学修しておく	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	スポーツ方法学Ⅱ Sports Method Study Ⅱ	1単位	選 択	実 習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本授業においては、スポーツの特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す事を目的とする。</p>					
	キーワード	スポーツ 方法学 健康	学修教育目標	<p>自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養うことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った内容を正しく日常生活で実践していくことができる。</p>		

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>現代社会における健康の課題を明らかにし、スポーツの果たす健康への効果を理解する。ルールを変更することで、スポーツの質・量・対象を柔軟に変えられることを理解し、魅力・経済性・効果のあるスポーツを実践指導、企画するプレゼンテーションを IT 発信も考慮し、チーム作業として行う。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>健康と福祉について、及び、スポーツと健康についての関連性を予備知識として身につけていることが望ましい。レクリエーションスポーツについて基礎的な知識を有することが望ましい。 事前学習として、授業で扱うスポーツのルールを学んでおく。また、基本的なスキルについてもインターネットの動画などを参考に学んでおく。積極的なスポーツ活動を行うにあたり 普段の生活から運動量を確保しておく。 事後学習として、授業で実践したスポーツスキルの定着のための復習を行う。 事前・事後学習共に、講義時間と同程度の時間を要する。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	スポーツ教室、スポーツ企画の運営・経営の基礎的な知識を身に付ける。			△	
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。			△	
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自らが主体となり、ユーザビリティの高いスポーツを企画・実践する。			○	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	プレゼンターとしての自覚、意思を明確に持つ。			◎
	② 働きかけ力	自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。			○
	③ 実行力	達成目標を明確化し、確実に実行する。			◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現代社会における健康の課題を明らかにする。			○
	② 計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。			△
	③ 創造力	既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。			◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく伝える。			△
	② 傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く。			○
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。			△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。			△
	⑤ 規律性	大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。			◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する。			○
4. 倫理観	① 倫理性	建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。			◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		10			15				25
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		10			10				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>スポーツ産業におけるイベントビジネスの位置づけと特性、イベントの構造や優れたイベント運営についての理解を深め、市民レベルのイベントを運営する際に必要な知見を学習する。</p>					<p>スポーツの特性やルールを正しく理解するとともに、スポーツイベントが果たす社会的、経済的、文化的役割を理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは、授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項、整列・体操、生涯スポーツの特性	講義	生涯スポーツの基礎知識を学修しておく	30
第2回 /	卓球 ルール説明、ゲーム	実習	卓球の基礎知識を学修しておく	30
第3回 /	ニュースポーツ① キンボール、モルック	実習	キンボール、モルックの基礎知識を学修しておく	30
第4回 /	ニュースポーツ② キンボール、モルック	実習	キンボール、モルックの基礎知識を学修しておく	30
第5回 /	バレーボール or ソフトバレーボール①	実習	バレーボールの基礎知識を学修しておく	30
第6回 /	バレーボール or ソフトバレーボール② スキルテスト	実習	バレーボールの基礎知識を学修しておく	30
第7回 /	ホッケー	実習	ホッケーの基礎知識を学修しておく	30
第8回 /	バスケットボール① パス、シュート、ゲーム	実習	バスケットボールの基礎知識を学修しておく	30
第9回 /	バスケットボール② パス、シュート、ゲーム スキルテスト	実習	バスケットボールの基礎知識を学修しておく	30
第10回 /	バドミントン	実習	バドミントンの基礎知識を学修しておく	30
第11回 /	フライングディスク① スロー、キャッチ、ゲーム	実習	フライングディスクの基礎知識を学修しておく	30
第12回 /	フライングディスク② スロー、キャッチ、ゲーム スキルテスト	実習	テニスのルールを学修しておく	30
第13回 /	サッカー パス、シュート、ゲーム	実習	サッカーの基礎知識を学修しておく	30
第14回 /	サッカー パス、シュート、ゲーム スキルテスト	実習	サッカーの基礎知識を学修しておく	30
第15回 /	インディアカ ルール説明、ゲーム	実習	インディアカの基礎知識を学修しておく	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体・健康リテラシー	健康の科学 Science of Health	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>文明の発達と共に人間生活は豊かになり、欲しいものは何でも手に入る便利な世の中となった。そのため我慢することを忘れ、自己の欲求を満たすことのみに終始する場面もしばしば見受けられるようになった。また、情報化社会の出現によるめまぐるしい環境の変化から、知らず知らず「心」にも微妙な変化が起こり、その結果、様々な形でストレスが溜まり健康を害するような問題も新たに加わった。このような問題は、「心の脆弱さ」から起こると指摘されることもある。</p> <p>21世紀、個人の責任や能力が求められる競争社会では、真の「心の強さ」が必要とされる。その様な時代の中で健康の保持増進を考えると、スポーツ（運動）を行うことの重要性を見逃すことはできない。しかし、ただ単にスポーツ（運動）を行うことだけで健康の保持増進を考えるのではなく、スポーツ（運動）を行うことによる心理的効果をも理解したうえで健康の保持増進を考えていく姿勢が必要である。</p> <p>今後、スポーツ（運動）の役割は、科学的に解明した内容をスポーツ選手だけでなく一般の人々が日常生活の中で容易に実践できる環境を整えていくことが重要となるであろう。</p> <p>現在、スポーツの科学は「運動生理学」・「バイオメカニクス」・「スポーツ心理学」等から構成されているが、本講義では「スポーツ心理学」を取り上げ、スポーツメンタルトレーニングの基礎となる考え方を学修し日常生活の様々な場面で活用し実践できる能力を養うことを目的とする。</p>
--------	---

キーワード	人コミュニケーション	学修教育目標	「スポーツ心理学」を取り上げ、スポーツメンタルトレーニングの基礎となる考え方を学修し日常生活の様々な場面で活用し実践できる能力を養う。
-------	------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

BASIC120 から自分きづきを学び、人コミュニケーションを学ぶ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

自然なコミュニケーションの力

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書 名：メンタルトレーニング 著者名：高妻 容一 出版社：ベースボール・マガジン社

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	スポーツ心理学の理論を日常生活の様々な場面で活用し実践できる能力を身につける。	△
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	スポーツ（運動）を行うことによる心理的効果をも理解したうえで健康の保持増進を考えることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備課題を主体的に取り組む事が出来る。	◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。	○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題点を明確にして取り組むことができる。	◎
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。	△
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを言葉にして説明しやすくする。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を傾聴することができる。	◎
	③ 柔軟性	ルールを守って生活することができる。	△
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。	○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	40					100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	2	8					20
	技能に関する評価		10	2	8					20
	応用力に関する評価		10	2	8					20
	チームワークに関する評価		10	2	8					20
	関心・意欲に関する評価		10	2	8					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
提出物全提出。					80%以上のレポート提出。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業ガイダンス ・授業を受ける姿勢について ・単位を修得するとは？ ・授業の進め方 ・評価について ・講時の諸注意事項	講義形式 パワーポイント 副教材あり	プリテストの準備	90
第2回 /	自己分析 ・プリテスト ・書き込み用紙	講義形式 BASIC120 問 書き込み	プリテストの準備	90
第3回 /	自己分析 ・プリテスト ・書き込み用紙 小テスト	講義形式 BASIC120 問 解説	日本におけるアスリートの心理的背景の予習	90
第4回 /	メンタルトレーニングとは 心と身体の関係 ・言葉の意味 ・歴史的背景	講義形式 自己 BASIC120 によるメンタル	自己 BASIC3 枚の読み込み	90
第5回 /	メンタルトレーニングとは 心と身体の関係 ・言葉の意味 ・歴史的背景	講義形式 自己 BASIC120、メンタル解説	自己 BASIC3 枚の読み込み	90
第6回 /	目標設定 ・目標の確認 ・具体的なプランの作成	講義形式 BASIC 副教材 P1-P3	本日の復習	90
第7回 /	セルフコントロール ・姿勢 ・呼吸 ・音楽	講義形式 BASIC 副教材 P4-P7	本日の復習	90
第8回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 BASIC 副教材 P8-P11	本日の復習	90
第9回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 BASIC 副教材 P12-P15	本日の復習	90
第10回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 BASIC 副教材 P16-P19	本日の復習	90

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 BASIC 副教材 P20-P23	本日の復習	90
第12回 /	メンタルトレーニングスキル ・リラクゼーション ・サイキングアップ ・イメージトレーニング ・集中力 ・ポジティブシンキング（プラス思考） ・セルフトーク ・サイキアウト ・セルフコンディショニング ・試合に対する心理的準備	講義形式 BASIC 副教材 P24-P27	本日の復習	90
第13回 /	自己分析 ・ポストテスト 小テスト	講義形式 BASIC 副教材 P28-P31	本日の復習	90
第14回 /	まとめ（1）	講義形式 総合まとめ	本日の復習	90
第15回 /	まとめ（2）	講義形式 総合まとめ	本日の復習	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	情報処理概論 Outlines of Information Processing	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	情報処理に関する基礎知識を学ぶことにより、情報通信技術（ICT）に対する理解を深め、ICT活用に向けての興味や関心を持つ。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	情報、情報処理、デジタル、ハードウェア、ソフトウェア、情報通信ネットワーク、アルゴリズム、プログラム、人工知能、情報システム、情報セキュリティ	学修教育目標	情報のデジタル表現、コンピュータの仕組みと動作、ハードウェア、ソフトウェア、情報通信ネットワークの仕組み、問題解決の手法、データの活用、アルゴリズムとプログラム、人工知能の基礎、情報システム、情報セキュリティ技術など情報処理全般についての基礎的知識について理解できることを目標とする。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では、情報のデジタル表現、コンピュータの仕組みと動作、ハードウェア、ソフトウェア、情報通信ネットワークの仕組み、問題解決の手法、データの活用、アルゴリズムとプログラム、人工知能の基礎、情報システム、情報セキュリティ技術など情報処理全般についての基礎知識や基本的な考え方について講義する。
 授業では、デジタル教科書を使用し、また「TGU e-Learning」を日常的に活用して進行する。授業内容についての知識や思考を深めるために、授業前に資料を読んで概要を理解しておくことをすすめる。また、授業中は、学修内容を解説するだけでなく、動画を視聴したり、課題を行ったりして、個人あるいはグループで思考を深める学習活動を行う。なお、授業内・授業外を問わず、授業の内容や方法について何か疑問点があれば質問して解決するように努めること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

情報リテラシー科目の「情報の倫理」、基本教養科目の「情報と職業」、情報システム領域の「情報通信ネットワーク」、「データベース論」、「システム設計論」、「セキュリティ管理」、プログラミング領域の「プログラミングⅠ」、「プログラミングⅡ」の理解につながる。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：パソコン&オンライン授業活用読本 2024 年度版 著者名：PCメディア編集部 編 出版社：日経BP	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	デジタル経済への移行で進められているDXに対応するICTの基礎的な知識を理解することができる。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	データ活用の基礎及び問題解決の手法について理解することができる。	○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報処理の基礎知識を学ぶことにより、情報通信技術に関する理解と興味を深めることができる。	◎
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	情報処理に関する教養を身につけるとともに、ICTを活用して多様な人々と関わる技能を身につける。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的にコンピュータや情報システムについての学修に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	情報システムを活用した課題発見や、情報社会の安心・安全の側面を踏まえた情報システムの課題を分析することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた課題を、他者にわかりやすく説明することができる。	○
	② 傾聴力	授業の説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	ハードウェア、ソフトウェアの仕組みおよび相互の結びつきを理解して、情報通信ネットワークなどの情報システムの成り立ちや機能を理解することができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	情報や情報機器を適正に取り扱い、情報セキュリティに関する知識や意識を高める。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				20	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
コンピュータと情報処理全般についての基礎知識、コンピュータの基本的な構成、その仕組みと原理を確実に理解している。各学修項目の理解度が80%以上である。					コンピュータと情報処理全般についての基礎知識、コンピュータの基本的な構成、その仕組みと原理の概要を理解している。各学修項目の理解度が60%～80%未満である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス デジタル教科書「日経パソコンEdu」や「TGU e-Learning」の利用方法、授業の目標、内容、方法、評価等についてのガイダンスを行う。	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 次回の学修内容の予習	予習 30
	コメントシートを提出			
第2回 /	コンピュータの発展とこれからの展開 情報社会の進展とコンピュータの発達、情報社会で起きている変化、AI等の情報技術の発展と未来の社会	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第3回 /	コンピュータとデータ表現 コンピュータでの計算、情報のデジタル表現	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第4回 /	ハードウェア コンピュータを構成する機器（CPU、記憶装置、入出力装置等）	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題①を提出。			
第5回 /	ソフトウェア 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。			
第6回 /	アルゴリズムとプログラミング アルゴリズムとその表現、代表的なアルゴリズム、プログラミング言語とその活用	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第7回 /	人工知能（AI）の基礎 人工知能とは、人工知能の基本知識と社会への導入や影響	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第8回 /	情報通信ネットワーク(1) ネットワークの構成、通信プロトコル、インターネットの仕組み	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題②を提出。			
第9回 /	情報通信ネットワーク(2) Web等インターネットの各種サービス（SNS、メール等）、クラウドコンピューティング	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第10回 /	情報社会と情報システム 情報システムとは、ビジネスを支える情報システム	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第11回 /	モデル化とシミュレーション モデル化の手順と方法、シミュレーションの実際、社会への応用	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第12回 /	社会におけるデータとAIの利活用(1) 社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題③を提出。			
第13回 /	社会におけるデータとAIの利活用(2) データ・AI利活用のための技術、データ・AI利活用の現場	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第14回 /	情報セキュリティ セキュリティのリスクと安全対策及びその技術	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第15回 /	これからの情報社会 データ・AI利活用の最新動向、現在から未来へつながる技術と課題	講義 日経パソコンEduの資料 スライド資料 コメントシートを利用	・ 学修した内容の復習	復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題④を提出。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	情報の倫理 Ethics of Information	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>情報社会の進展で、経済、文化、教育などあらゆる分野で情報技術を活用することが求められている。とりわけ、パソコンやスマートフォン等の情報機器を用いたインターネットの活用は、企業活動を活性化し、生活を便利で豊かにする反面、情報を取り扱うにあたっての関連法の理解や、情報の倫理観やセキュリティの意識に基づく適切な行動規範が求められる。この科目では、情報の取扱いに係る法規や倫理性について学ぶとともに、情報社会がもたらす「光」（恩恵）と「影」（問題点）のさまざまな事例を通して、情報倫理や情報セキュリティに関する理解と意識を高める。さらに、大学での学修や、仕事、生活に情報や情報技術を活用し、情報社会に参画する市民としての資質や態度を養成する。</p>
--------	---

キーワード	<p>情報社会、個人情報、知的財産権、有害情報、サイバー犯罪、セキュリティ対策、デジタルシティズンシップ</p>	学修教育目標	<p>情報社会をよりよく生きるために求められる情報やメディアの特性の理解、個人情報や知的財産（著作物等）の取り扱いや関連法の理解、ビジネス、生活、教育における情報の適切な活用と留意点、有益・有害情報の取捨選択、SNS等のインターネットを活用したコミュニケーションにおけるモラルやルールの遵守、サイバー犯罪の被害に遭わないための情報セキュリティ対策など、情報社会が投げかける「光」と「影」に関する知識と意識を高め、適切に情報を取り扱う資質と態度を養成する。</p>
-------	--	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では、情報やメディアの特性の理解、個人情報や知的財産（著作物等）の取り扱いや関連法の理解、ビジネス、生活、教育における情報の適切な活用と留意点、有益・有害情報の取捨選択、SNS等のインターネットを活用したコミュニケーションにおけるモラルやルールの遵守、サイバー犯罪の被害に遭わないための情報セキュリティ対策など、インターネットを利用したサービスの有効性や可能性という「光」の側面と、さまざまなトラブルや犯罪などの「影」の側面について認識を深める。

授業では、デジタル教科書を使用し、また「TGU e-Learning」を日常的に活用して進行する。授業内容についての知識や思考を深めるために、授業前に資料を読んで概要を理解しておくことをすすめる。また、授業中は、学修内容を解説するだけでなく、動画を視聴したり、課題を行ったりして、個人あるいはグループで思考を深める学習活動を行う。なお、授業内・授業外を問わず、授業の内容や方法について何か疑問点があれば質問して解決するように努めること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

総合教養科目・基本リテラシー科目・情報リテラシーの「情報処理概論」、総合教養科目・基本教養科目の「情報と職業」、専門教養科目・情報システム領域の「情報通信ネットワーク」および「セキュリティ管理」の理解につながる。

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：パソコン&オンライン授業活用読本 2024 年度版 著者名：PCメディア編集部 編 出版社：日経BP</p>	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	デジタル化された経済や社会が人々生活に与える影響、レコメンドによる販売促進等について理解することができる。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	個人情報やプライバシーの保護、著作権等の知的財産について理解し、ビジネスデータを適切に取り扱うことができる知識と態度を身に付ける。	◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報通信技術を活用した新しいビジネスに関する理解、情報の適切な取り扱いと運用、情報セキュリティへの対策、情報通信技術をビジネスに活用する知識や態度を身に付ける。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	情報社会における法規や社会規範の遵守、有益・有害情報の取捨選択など、情報社会の光と影の側面を理解して、よりよい情報社会の実現に参画する力や態度を身に付ける。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	情報を適正に取り扱い、適切に発信することができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し最適な行動を実行できる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	情報や情報機器を適正に取り扱い、情報モラルに関する知識や意識を高め、他者に配慮して行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				20	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>インターネットの活用など情報社会の利便性や有用性という「光」の側面を深く理解するとともに、情報技術をよりよく活用するために、個人情報や知的財産の保護、有害情報、サイバー犯罪、情報セキュリティ対策などについてよく理解して、よりよい情報社会の構築に向けて積極的に参画しようとする態度が見られる。 各項目の理解度や態度の形成が80%以上である。</p>					<p>インターネットの活用など情報社会の利便性や有用性という「光」の側面を理解するとともに、情報技術をよりよく活用するために、個人情報や知的財産の保護、有害情報、サイバー犯罪、情報セキュリティ対策などの基本的な内容を理解して、よりよい情報社会の構築に向けての参画しようとする態度が見られる。 各項目の理解度や態度の形成が60%～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス デジタル教科書「日経パソコン Edu」や「TGU e-Learning」の利用方法、授業の目標、学習内容、方法、評価等についてのガイダンスを行う。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第2回 /	情報社会と情報リテラシー 情報社会について認識を深め、情報やメディアを安全かつ積極的に活用する基本的な考え方について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第3回 /	情報・メディアとその特性 情報の特性、メディアリテラシー、情報社会の進展、新しい情報技術と及ぼす影響などについて理解する。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第4回 /	個人情報 個人情報とは、個人情報の漏洩とその被害、個人情報の保護、プライバシーの侵害とその対策、名誉棄損の問題等について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題①を提出。			
第5回 /	知的財産権 産業財産権、著作権、著作隣接権等について学び、著作権侵害の事例を通じて著作権保護の意識を高め、著作物の正しい利用について理解する。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第6回 /	情報技術の活用と課題 テレワーク、オンライン学習、遠隔医療など生活や労働を支える情報技術とネット依存などの健康被害の問題について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第7回 /	インターネットとビジネス ネットショッピングやオークションの利用と売買トラブルやマルチ商法等の問題、消費者保護、電子マネーの利用等について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第8回 /	ネットワーク上の問題行動と有害情報 インターネットを用いた問題行動、名誉毀損、炎上、性犯罪、いじめなどの問題、さらに有害情報やフィルタリングの利用などについて学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題②を提出。			
第9回 /	情報コミュニケーションとモラル 電子メール、メーリングリスト、SNS やブログ、動画視聴サイトなどソーシャルメディアの活用と、使用上のモラルについて理解する。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第10回 /	サイバー犯罪 不正アクセス、ネット詐欺や違法物の販売などのサイバー犯罪、コミュニティサイトを通じた犯罪等について、事例を通じて理解する。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第11回 /	情報セキュリティ パスワードほか各種認証、コンピュータウイルスの被害と対策、Web ページや電子メールのセキュリティ、暗号化技術の利用について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第12回 /	情報を取り扱う倫理観 情報の独占・隠蔽、捏造、改ざん、隠蔽・消去が社会におよぼす影響について学ぶ。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題③を提出。			
第13回 /	情報機器使用のマナーとモラル スマートフォン、ゲーム機、タブレット PC 等の情報機器を使用する際のモラルとマナーについて考え、意識を高める。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修したテキストの復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第14回 /	健全な情報社会を創るために データや AI 等の情報技術を扱う上での留意事項として、データや AI の活用で生じる課題について議論し、個人情報の保護や AI 導入で生じる社会的影響等について考え、社会課題の解決に向けての意識を高める。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習 ・次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出			
第15回 /	まとめ これまでの授業の学修を振り返り、模擬問題で知識や理解を確認するとともに、レポート課題についてもまとめ、期末考査の準備を行う。	講 義 日経パソコン Edu の資料 スライド資料、動画教材	・学修した内容の復習	復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題④を提出。			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I (ベーシック) Software Literacy I (Basic)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、Wordの基本的な機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	Word 文書の作成	学修教育目標	学生は、コンピュータの基本操作と入力に慣れ、日常よく使用する文書やレポート類を自分の力で作成できるようになることが目標である。			
-------	---------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

Wordの基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quickによる入力練習に時間をかけることが望まれる。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ウェブデザイン実務士」の資格取得要件科目の1つになっている。 「サーティファイ Word 文書処理技能認定試験」、「マイクロソフトオフィススペシャリスト (Word)」を取得するための関連科目になっている。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標 (1)	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	Wordの操作を通してコンピュータの基本操作を身につける。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	Wordの基本的な操作技能を身につける。	◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報発信のツールの一つとしてWordを活用する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標 (2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	◎

1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45				45		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10		5	25
	応用力に関する評価		5				5			10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20		5	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、文字の入力に抵抗がない。					テキストを参考にしながらコンピュータの基本操作と Word の基本操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	復習：授業内容の振り返り	30
	課題			
第2回 /	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Wordの基本（第1章）	講義、演習	予習：タイプクイックの登録 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第3回 /	タイプクイック練習 Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第4回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章） タイプクイック	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第5回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第6回 /	タイプクイック練習 文書の編集（第3章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第7回 /	タイプクイック練習 文書の印刷（第4章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第8回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第9回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第10回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第11回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第12回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第13回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第14回 /	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	予習：タイプクイックの練習 復習：授業内容の振り返り	60
	課題			
第15回 /	総合学習問題の解説と練習 プレースメントテスト	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I（スタンダード） Software Literacy I (Standard)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Wordに用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験 Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Word」にも挑戦することを目標とする。また、Type Quick 検定は SILVER LEVEL（正確率 95%以上かつスピード 30WPM を目指す。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっている。 「プレゼンテーション実務士」、「観光ビジネス実務士」の取得要件選択科目の1つになっている。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット			書名：学生に役立つ Word&Excel&PowerPoint 出版社：FOM 出版			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識を身につける。	Word の基本的な操作技能を身につけ活用できる。				○
③	国際理解・異文化理解ができる知識を身につける。					
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	Word の基本的な操作技能を身につけ自在に文書作成ができる。				◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報発信のツールの一つとして Word を活用する。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	経験値や情報を纏め、発表する技能を見つけて活用できる。				△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。				○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	25			30			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	5			10			45
	技能に関する評価		10	20			10			40
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						10			10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Word の基本操作ができ、Word の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） 課題	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 （以下、毎回、時間とも同様）	30
第2回 /	タイプクイック導入 Wordの基本（第1章） 課題	講義、演習		
第3回 /	タイプクイック Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章） 課題	講義、演習		
第4回 /	タイプクイック 文字の入力と編集の基本操作（第2章） 課題	講義、演習		
第5回 /	タイプクイック 文書の編集（第3章） 課題	講義、演習		
第6回 /	タイプクイック 文書の印刷（第4章） 課題	講義、演習		
第7回 /	タイプクイック 文書の作成（第5章） 課題	講義、演習		
第8回 /	タイプクイック 文書の作成（第5章） 小テスト 課題	講義、演習		
第9回 /	タイプクイック 表を使った文書の作成（第6章） 課題	講義、演習		
第10回 /	タイプクイック 表を使った文書の作成（第6章） 小テスト 課題	講義、演習		
第11回 /	タイプクイック 図形や画像を使った文書の作成（第7章）認定試験模擬演習 課題	講義、演習		
第12回 /	タイプクイック 認定試験模擬演習 課題	講義、演習		
第13回 /	タイプクイック 認定試験模擬演習 小テスト、課題	講義、演習		
第14回 /	タイプクイック 認定試験模擬問題仕上げ 課題	講義、演習		
第15回 /	タイプクイック 総合学習問題の解説と練習 課題	講義、演習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシー I（アドバンス） Software Literacy I (Advanced)	1単位	選択必修	演習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では文書作成ソフト、「Microsoft Word」の使い方を学修する。学生は、Word に用意されている基本的なコマンドの意味と、そのはたらきを理解し、機能を活用して文書作成ができるようになることを目的とする。また、資格取得にも積極的に挑戦する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	Word 文書の作成 Word 文書処理技能認定試験 Microsoft Office Specialist Word	学修教育目標	学生は、日常よく使用する文書やレポート類を能率よく、かつ美しく作成できる力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Word 文書処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Word」の少なくとも一方を取得することを目標とする。また、Type Quick 検定は GOLD LEVEL（正確率 97%以上かつスピード 50WPM）を目指す。			
-------	--	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教科書および配布教材を用いる。Word の基本操作である文字の入力、文字の編集、文書の編集、文書の印刷、文書の作成、表を使った文書の作成、図形や画像を使った文書の作成を修学する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。Type Quick による入力練習に時間をかけることが望まれる。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

文書作成ソフト（Word）は他科目においてもレポート作成で必要となることがある。本授業外でも日常的に使用して、様々な機能の活用イメージを持てるようにすること。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：Word 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	Word の操作を通してコンピュータの基本操作を身につける。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	Word の基本的な操作技能を身につけ自在に文書作成ができる。	◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報発信のツールの一つとして Word を活用する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45				45		10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25				10			35
	技能に関する評価		10				10		5	25
	応用力に関する評価		10				5			15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20		5	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Wordの基本操作だけでなく、実用的にWordを使いこなすことができ、人に教えることもできる。					Wordの基本操作ができ、日常的な文書作成にWordを使うことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方、TGU.net） コンピュータの基本操作	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第2回 /	コンピュータの基本操作 タイプクイック導入 Wordの基本（第1章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第3回 /	タイプクイック練習 Wordの基本（第1章） 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第4回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第5回 /	タイプクイック練習 文字の入力と編集の基本操作（第2章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第6回 /	タイプクイック練習 文書の編集（第3章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第7回 /	タイプクイック練習 文書の印刷（第4章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第8回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第9回 /	タイプクイック練習 文書の作成（第5章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第10回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第11回 /	タイプクイック練習 表を使った文書の作成（第6章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第12回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第13回 /	タイプクイック練習 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第14回 /	タイプクイック検定 図形や画像を使った文書の作成（第7章）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題			
第15回 /	総合学習問題の解説と練習 プレースメントテスト	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（ベーシック） Software LiteracyⅡ（Basic）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力の基礎を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解し、データの編集、表の作成、グラフの作成、図形の作成、関数、並べ替えなどの基本操作を修得する。					
	Excel 表の作成 グラフの作成	学修教育目標	実際の作成例をもとに、図表の作成、グラフや図形の作成、簡単な数式の計算ができるようになる。			

授業科目の概要及び学修上の助言

Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要となることがある。日常的にパソコンを使用すること。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編）
著者名：ウィネット
出版社：ウィネット

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	表計算ソフトを使ったデジタルデータの取り扱いを理解してデータ整理・処理ができる。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	Excelの基礎的な機能を使ったデータ処理ができる。	◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	ネットワークを使ったデジタルデータの送受信ができる。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	問題解決のために、状況をていねいに説明し、助言を求めることができる。また、助言をすることもできる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				50			100
評価 の 指標	知識に関する評価		40				10			50
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						30			30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
Excel の基本操作を理解し、Excel を活用してデータ処理ができる。					テキストを参考にしながら、Excel の操作ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 小レポート			
第2回 /	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 2章 データの編集			
第3回 /	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 2章 練習問題1・2・3			
第4回 /	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 3章 表の編集、練習問題1・2・3			
第5回 /	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 4章 ブックの印刷、練習問題1・2・3			
第6回 /	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 5章 グラフと図形の作成			
第7回 /	グラフと図形の作成 (2) 様々なグラフの作成、図形の作成について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 5章、練習問題1・2・3			
第8回 /	ブックの利用と管理 ワークシートの管理・ウィンドウ操作について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 6章 ブックの利用と管理、練習問題1・2・3			
第9回 /	関数(1) 統計関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7章の1 関数/統計計算			
第10回 /	関数(2) 数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7章の2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第11回 /	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 7章 練習問題1・2・3			
第12回 /	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について実習する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	課題 8章、練習問題1・2・3			
第13回 /	総合学習問題（実習）	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	総合学習問題			
第14回 /	総合学習問題（解説） これまでに学修した内容の総復習を行う。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題	60
	総合学習問題			
第15回 /	最終課題 これまでに学修した内容の活用力を確認する。	講義、演習	復習：学期末テストに向けて	60
	最終課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（スタンダード） Software LiteracyⅡ（Standard）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。Excelは他の授業や卒業後社会に出てからも使う機会が多く、一通り使えるようになっておく必要がある。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につけること、さらに全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験」や「Microsoft Office Specialist Excel」にも挑戦することを目標とする。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修する。また、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。パソコン操作が苦手な学生は、自主学習により時間をかけてくることが望まれる。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

表計算ソフトは他科目において演習・レポート作成に必要な予備知識や技能となる。日常的にパソコンを使用すること。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。		
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	パソコン操作を取り組む姿勢が前向き。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。		
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	数値データを適切な表やグラフにする。	◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	Excelの基本的な操作技能を身につける。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	他者の有能な操作技能を真似することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		35		15					50
	技能に関する評価		10		15					25
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				20					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを修得する。 コメントシート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第2回 ／	データの編集(1) 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。 課題 2章 データの編集	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第3回 ／	データの編集(2) データの移動とコピー、相対参照、絶対参照について修得する。 課題 2章 練習問題 1、2、3	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第4回 ／	表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。 課題 3章 表の編集	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第5回 ／	ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。 課題 4章 ブックの印刷	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第6回 ／	グラフと図形の作成 (1) グラフの作成、図形の作成について修得する。 課題 5章の1 グラフと図形の作成/グラフの作成	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第7回 ／	グラフと図形の作成 (2) グラフの作成、図形の作成について修得する。 課題 5章の2 グラフと図形の作成/図形の作成	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第8回 ／	グラフと図形の作成 (3) グラフの作成、図形の作成について修得する。 課題 5章 練習問題 2、3	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第9回 ／	ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。 課題 6章 ブックの利用と管理	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第10回 ／	関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。 課題 7章の1 関数/統計計算	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第11回 ／	関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。 課題 7章の2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第12回 ／	関数(3) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。 課題 7章 練習問題 1、練習問題 2	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第13回 ／	関数 (4) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。 課題 7章 練習問題 3	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第14回 ／	データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。 課題 8章 データベース機能、練習問題 1、2、3	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第15回 ／	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。 総合学習問題	講義、演習	授業内容の復習と問題	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	ソフトウェアリテラシーⅡ（アドバンス） Software LiteracyⅡ（Advanced）	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	この授業では表計算ソフト「Microsoft Excel」を用い、データの集計ならびにその分析能力を身につけることを目的とする。Excelの基本操作を理解した上で、数式の作成と編集、グラフ化、並べ替え、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を修得する。サーティファイまたはマイクロソフトが主催するExcelの認定試験の対応をする。					
キーワード	Excel 表の作成 グラフの作成 Excel表計算技能認定試験 MOS Excel	学修教育目標	学生は、実際の作成例をもとに、日常よく使用する図表や計算書などが能率よく、かつ美しく作成できる能力を身につける。全授業終了後に実施されるサーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験」または「Microsoft Office Specialist Excel」にも合格することを目標とする。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
Excelの基本操作であるデータの編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成、ブックの利用と管理、関数、データベース機能を学修し、問題演習を行いながら、実践的に操作技術の習得をする。技能確認のため、課題作成を行なう。単位取得には、課題を全て提出する必要がある。また、認定試験に合格できるように学習時間を確保すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「就職基礎能力修得証明書」の認定基準領域の必須授業科目の1つになっています。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：Excel 2019 クイックマスター（基本編） 著者名：ウィネット 出版社：ウィネット			書名：Excel表計算処理技能認定試験3級問題集（2019対応） 著作者：サーティファイ 出版社：サーティファイ 書籍：学生に役立つWord&Excel&PowerPoint 出版：FOM出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識を身につける。	Excelの操作技能を身につける。				○
③	国際理解・異文化理解ができる知識を身につける。					
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	Excelの基礎的な機能を使ったデータ処理ができる。				◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	ネットワークを使ったデジタルデータの送受信ができる。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	経験値や情報を纏め、発表する技能を見つけて活用できる。				△
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	表計算ソフトの理解に関して、目的や課題を明らかにすることができる。				◎
	② 計画力	自身の技能に合わせて課題を仕上げるスケジューリングや条件などをまず整理して計画する。				◎
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりに答えを出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	授業中は私語をせず、人々や社会との関わりの中で、道徳やマナーに留意し、規律高い活動が行える。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				50			100
評価 の 指標	知識に関する評価		30				10			40
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10			20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価						20			20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に Excel の基本操作ができ、人に教えることができる。Excel に関する認定試験に合格できる。					Excel の基本操作ができ、Excel の基本操作を理解し、人に教えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1章 授業のオリエンテーションと基本操作 授業についてのオリエンテーションを行う。その後エクセルの起動・終了、ファイル操作の方法や文字入力のしかたなどを修得する。	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 (以下、毎回、時間とも同様)	60
	課題 1章 基本操作			
第2回 /	第2章 データの編集 新規ブックの作成、データの入力、数式の入力について修得する。	講義、演習		
	課題 2章 データの編集			
第3回 /	第3章 表の編集 罫線の設定、セルの書式設定、セルの配置、表示形式の設定、列幅や行の高さの調整、行や列の挿入と削除について学修する。	講義、演習		
	課題 3章 表の編集			
第4回 /	第4章 ブックの印刷 印刷モードの切り替え、ページ設定の変更、印刷の実行、印刷範囲の指定について修得する。	講義、演習		
	課題 4章 ブックの印刷			
第5回 /	第5章 グラフと図形の作成 グラフの作成、図形の作成について修得する。	講義、演習		
	課題 5章 グラフと図形の作成			
第6回 /	第6章 ブックの利用と管理 ワークシートの管理、ウィンドウの操作について修得する。	講義、演習		
	課題 6章 ブックの利用と管理			
第7回 /	第7章 関数(1) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習		
	課題 7章の1 関数/統計計算			
第8回 /	第7章 関数(2) 統計関数、数学・三角関数、論理関数、日付関数の使い方を修得する。	講義、演習		
	課題 7章の2、3、4 関数/数学/論理関数/日付関数			
第9回 /	第8章 データベース機能 リストの作成、並べ替え、条件にあったデータの抽出、小計の挿入について修得する。	講義、演習		
	課題 8章 データベース機能			
第10回 /	総合学習問題の解説 これまでに修得した内容の総復習を行う。	講義、演習		
	総合学習問題			
第11回 /	表計算処理技能認定試験対応（1） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題1、練習問題2			
第12回 /	表計算処理技能認定試験対応（2） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題3、練習問題4			
第13回 /	表計算処理技能認定試験対応（3） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題5、練習問題6			
第14回 /	表計算処理技能認定試験対応（4） 練習と解説	講義、演習		
	練習問題7、練習問題8			
第15回 /	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	プレゼンテーション演習 Presentation Exercise	1単位	選 択	演 習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>ビジネスを進める際に重要にあるのは、自分の理想や理念に周囲がどれだけ共感してくれるかということである。周囲の人々の共感を得るためには、自らの理想や理念を効果的に伝える能力が必要である。この講義では、自分が伝えたいと思っている事柄を効果的に相手に伝える方法について様々な状況を想定して実践的に学ぶ。</p>					
キーワード	機能的・効率的表現	学修教育目標	時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関して、疑問の箇所があれば、次回の授業までに理解しておこう。 ・基本的なコンピュータの操作ができるようにしておこう。 ・毎回ごとに完結する授業ではない（毎回の積み重ねが大切）ため、欠席はしないように。 <p>※もし欠席した場合は、欠席時の授業内容を授業内で繰り返し行わないので各自で友達に聞いておくなど解決して、追いついておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
コンピュータの基本的な操作・知識を身につけておくこと。また、この科目は課題が多いので、真剣に取り組む努力と姿勢、実行力が必要である。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書 名：30時間でマスター プレゼンテーション + powerpoint 2021 著者名：実教出版編修部 出版社：実教出版			なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	心豊かな人間になる。				△
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	臨機応変さを身につける。				○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	視野を広げる。				△
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	道具として使いこなす。				◎
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	専門性に誇りをもつ。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	他者に、説明や助言する力を身につける。				△
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	あきらめない				◎
	② 働きかけ力	ポジティブな態度				◎
	③ 実行力	楽しむ気持ちも大切				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	丁寧に進める。				○
	② 計画力	最終目標を設定する。				◎
	③ 創造力	新しい発想				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識する。				◎
	② 傾聴力	集中する力				◎
	③ 柔軟性	多角度的発想				◎
	④ 状況把握力	相手の立場を尊重する力				○
	⑤ 規律性	マナーを知る。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	癒しの方法を探す。				○
4. 倫理観	① 倫理性	情報倫理として、人に迷惑をかけないとは何かを考える。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	19		40				100
評価 の 指標	知識に関する評価		21	10		10				41
	技能に関する評価		5			25				30
	応用力に関する評価		5	4						9
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	5		5				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。					時間・場所・目的にあった適切なプレゼンテーションをする能力を身につけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 受講上の諸注意、プレゼンテーションの基本的な考え方を学ぶ。	講義 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30
第2回 /	プレゼンテーション構成 プレゼンテーションの基本構成を考え、プレゼンテーション確認シート作成について学ぶ。	講義 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第3回 /	配布資料の作成 口頭発表時に配布する資料について学び、実際に作成する。	講義と実習 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第4回 /	口頭発表法の習得と確認シートの作成 口頭発表法を学び、テーマに基づく発表用のアウトラインを作成する。 時間内課題の提出	講義 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第5回 /	口頭発表（1） 前回作成したアウトラインを元に口頭発表をする。 発表会	実習	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第6回 /	パワーポイントの復習（1） パワーポイント操作方法の復習をする。	講義と実習 パワーポイント	・パワーポイント操作方法 ・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第7回 /	パワーポイントの復習（2） パワーポイント操作方法の復習をする。	講義と実習 パワーポイント	・パワーポイント操作方法 ・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第8回 /	プレゼンテーション演習（1） 与えられたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成をする。	講義と実習 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第9回 /	プレゼンテーション演習（1） 前回課題を完成する。	講義と実習 パワーポイント	・課題の提出方法 ・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第10回 /	口頭発表（2） 「プレゼンテーション演習（1）」で作成したスライド、配布資料を用いて口頭発表をする。 発表会	実習	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第11回 /	プレゼンテーション演習（2） 各自で考えたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成をする。	講義と実習 パワーポイント	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第12回 /	プレゼンテーション演習（2） 各自で考えたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成し完成する。	講義と実習 パワーポイント	・課題の提出方法 ・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第13回 /	プレゼンテーション演習（3） 各自で考えたテーマに基づくプレゼンテーション確認シート、アウトライン作成、配布資料作成、スライド作成し完成する。 時間内課題の提出	実習	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第14回 /	「プレゼンテーション演習（2）」発表と質疑応答（1） 口頭発表後、質疑応答後に相互評価をする。 成果発表	実習	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30
第15回 /	「プレゼンテーション演習（2）」発表と質疑応答（2） 口頭発表後、質疑応答後に相互評価をする。 成果発表	実習	・教科書で予習復習をする	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	茶道と文化 Tea Ceremony and Japanese Culture	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	(1) 裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 (2) 日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。					
	キーワード	伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心	学修教育目標	「初級」の資格の許状を申請できる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。 海外から高く評価されている茶道の基本理念を理解できる。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	社会生活の中でのおもてなしの心や協調性を身につけることができる。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	感謝の心や物に動じない精神力を育むことができる。 あらゆる人・物・事に感謝し、動じない精神力を育むことができる。	△
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	変化する時代の中で、茶道を知ることによって、より深く現代社会を理解することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために協力することの必然性を伝えることができる。	◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、行動できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に分析し、課題を解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の気持ちを思いやり、意見をきくことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分のおかれている立場を正確に把握できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	20	20			5	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		10	1	10				1	22
	技能に関する評価		10	1		10			1	22
	応用力に関する評価		10	1					1	12
	チームワークに関する評価		10	1					1	12
	関心・意欲に関する評価		10	1	10	10			1	32
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。</p>					<p>茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第2回 /	客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第3回 /	基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第4回 /	茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第5回 /	茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第6回 /	ビデオ鑑賞 「茶の湯」「お茶で豊かな心を」	講義	日常生活での学修内容の実践	20
第7回 /	茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶 小テスト	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第8回 /	レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第9回 /	茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第10回 /	レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第11回 /	現代の茶道 ①盆略点前 (4)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第12回 /	茶と禅 ①盆略点前 (5)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第13回 /	茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第14回 /	総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第15回 /	①実技試験（盆略点前）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	近代史の探究 Research in Modern History	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>現代は世界各地で宗教紛争が起こり、異文化同士が衝突する時代である。近代という時代（16～19世紀）は、現代の直前の時代としてきわめて重要な意味を持っている。近代の歴史とこれに続く現代の歴史を学ぶことは、今後の世界を生きていくうえで必要不可欠である。 以上のことをふまえ、この授業では、現代世界の成り立ちについて、近現代の歴史を学ぶことを通して、理解できるようになることを目的とする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	異文化理解 宗教 グローバリズム ナショナリズム 文明の衝突	学修教育目標	近代の歴史のおおまかな流れを理解し、説明できるようになる。 現代の国際問題のニュースについて自分から関心・興味をもって調べ、理解を深めることができるようになる。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業には、インターネット接続可能なノート PC、タブレット、スマートフォン等を持参すること。大きい画面のノート PC やタブレットの方が授業で使用する資料を確認しやすいです。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「西洋史の探究」「心性の歴史」「宗教と文化」と関連する。						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	近現代の歴史についての理解を土台にして、国際理解・異文化理解を深めることができる。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	近現代の歴史についての教養を身につけ知性を磨き、社会に貢献するための基礎力を獲得することができる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。				○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。				○
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。				○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。				○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。				◎
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。				◎
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。				○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		45				14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		21		14				2	37
	技能に関する評価								3	3
	応用力に関する評価		10		14				3	27
	チームワークに関する評価								3	3
	関心・意欲に関する評価		10		17				3	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>授業で学んだことをもとにして、現代の国際情勢に関するニュースや書籍等に自らアクセスし、それらの資料をもとにして、自分なりの考え方を深めることができるようになる。</p>					<p>授業で学んだことから、現代の国際情勢に関する自分なりの考え方を持つことができるようになる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 1. 現代と近代史の関係	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	2. 冷戦とは何か	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	3. 孤立国家としての日本	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	4. アメリカの歴史と宗教	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	5. 現在のアメリカの政治	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	30
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	6. アメリカと日本の関係	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	7. 多極化・多文明化する世界	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	8. 「文明の衝突」説	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	9. 現代世界と宗教	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	10. 近代史のなかの日本とアジア①：明治・大正	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	11. 近代史のなかの日本とアジア②：昭和・平成	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	12. 近代史のなかの日本と西洋①：明治・大正	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	13. 近代史のなかの日本と西洋②：昭和・平成	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	14. 今後の日本と世界①：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	15. 今後の日本と世界②：最近のニュースを例にして	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	20
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	日本の文学 Japanese Literature	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	日本の文学を古代から、中世・近世・近現代にわたって俯瞰する。古事記・日本書紀から芥川賞・直木賞作品までを文章や動画等を通して各時代の作品に触れ、日本の文学への関心をもつことができる。					
	キーワード	日本文学史	学修教育目標	学生が日本文学の発生と展開を学ぶことにより、広く人間と文学についても考えることができるようにする。 また、近現代文学の一端に触れることを通して、日本の近現代文学についても自分の考えを述べるができる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

シラバスのタイトルなどの内容をあらかじめ調査しておくことと授業に興味をもてよう。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。						
-------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

最新 国語便覧（改訂・増補）・浜島書店	「源氏物語」等授業で取扱う教材の文庫等
---------------------	---------------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	文学作品を通して、ビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	文学作品から国際理解・異文化理解を読み解く力を身につける。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	文学的な視点からの問題解決を図る能力を身につける。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	歴史や文学を通して先達の「知恵」を学び、実社会での問題解決能力を身につける。	△
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	社会に貢献することができる洞察力や価値観を、文学を通して身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		30					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20			20				40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
古代の日本文学と歴史的背景を学ぶ。各回の内容（講義と視聴覚教材）はもちろんそれぞれの授業内容の相互関連性をも理解されている。					授業内容の相互関連性は多少分かりづらい面があっても、各回の内容について興味を持つ部分については感想や疑問を投げかけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の説明	講義と演習	シラバスを事前に読んでくる	復習 60
第2回 /	日本の古代文学(1) —古事記— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第3回 /	日本の古代文学(2) —日本書紀— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第4回 /	日本の古代文学(3) —万葉集— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第5回 /	日本の古代文学(4) —竹取物語— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第6回 /	日本の古代文学(5) —勅撰和歌集— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第7回 /	日本の古代文学(6) —枕草子— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第8回 /	日本の古代文学(7) —源氏物語— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第9回 /	演習(1) —日本の古代文学について— 古事記・日本書紀・万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート報告	講義と演習	万葉集・竹取物語・枕草子・源氏物語からレポート作成	復習 60
第10回 /	日本の中世文学(1) —幽玄・有心の文学観(1)— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第11回 /	日本の中世文学(2) —幽玄・有心の文学観(2)— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第12回 /	日本の近世文学(1) —上方文学— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第13回 /	日本の近世文学(2) —江戸文学— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第14回 /	日本の近現代文学 —明治以降— —基本的な知識と特性を理解する—	講義と演習	「最新 国語便覧（改訂・増補）」該当箇所読み	復習 60
第15回 /	演習(2)日本の近現代文学 —芥川・直木賞— 私の好きな小説レポート報告	講義と演習	私の好きな小説レポート作成	復習 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目 社会と経済	法と社会 Law and Society	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	現代社会に生きる我々は法という規範によって自由と平等・社会秩序が保障されている。法律を初めて学ぶ学生に法律についての全体像が把握できるように具体的に平易に解説する。憲法が国法の体系の中でももっとも強い形式的効力をもつこと、すなわち、憲法に反する一切の国法は効力をもちない。その憲法を主に研究したい。天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を習得することを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	国家と国民、法と法律	学修教育目標	憲法の理解を基に、天皇、戦争放棄、国会、内閣、裁判制度、地方自治の住民直接請求権、国際法等など基礎的な知識を持つことができる。			
-------	------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

いわゆる六法の類型を理解し、日本国憲法の周辺知識と、基礎的内容を学修する。						
---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目も、法律に基づき開講されているものが多くある。根拠法律を一読することが必要で、その読解力の養成につなぐ。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：改訂版 新・学習憲法 著者名：構木 純二・金谷 重樹・吉川 寿一著 出版社：晃洋書房			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）			
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	法と慣習法との基礎的関係の理解			◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	民事法、行政法の理解			○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	民事法、国際法の理解			◎
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	民事法、行政法の理解			○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	民事法、行政法の理解			○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	法と道徳、慣習法との基礎的関係の理解と応用			○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	法の理解力向上による行動力の向上。			◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。			○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。			○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	法的思考力の醸成による能力向上。			◎
	② 計画力	法的思考力の醸成による洞察力。			◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。			○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。			○
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。			○
	③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。			△
	④ 状況把握力	法的思考力の醸成。			◎
	⑤ 規律性	法的思考力の醸成による規範能力向上。			◎
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。			△
4. 倫理観	① 倫理性	正義観の向上。			◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	20	10				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	10	5				10	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15	5	3				3	26
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	5	2				2	19
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 85 点以上。					小テスト、レポート、その他を含め点数化すると 65 点以上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 自己紹介と講義の進め方と評価、法律とはどのような学問かを説明する。	講義	NHK テレビニュース 19:00、21:00等を聴取する	60
第2回 /	法とは何か、法の存在形式と目的 法と社 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法の重要性について。	講義	同上	60
第3回 /	法とは何か、法の存在形式と目的 法と社 法と道德等 社会生活での方の存在意識について。 法と社会規範との関係。法の重要性について。	講義	同上	60
第4回 /	法の種類と体系 法と法律の違い。法源・法の理念について。 成文法 不文法 国際法 国内法（公法・司法・社会法）	講義	同上	60
第5回 /	法の効力・適用と解釈 法の効力と解釈の仕方。有権解釈 学理解釈 立法解釈 司法解釈 行政解釈 文理解釈 論理解釈 法不遡及の原則。既得権尊重の原則。	講義	同上	60
第6回 /	法と権利義務 権利とは何か、義務とは何か。国民の三大義務 現代は法を権利の面から、古代中世は法を義務の面から。	講義	同上、その他日本史教科書を読む	80
第7回 /	憲法 日本国憲法と明治憲法との比較 国家とは何か 憲法とはどのような法律か。国家とは何か。日本国憲法と明治憲法との比較	講義	同上	80
第8回 /	天皇 皇室 象徴天皇制 女性天皇問題 皇室財産	講義	同上	80
第9回 /	基本的人権 基本的人権の体系と三権分立のしくみ 人権の限界 基本的人権と公共の福祉の関係 環境権 新しい人権 幸福追求権 政教分離原則	講義	NHK ニュース等を聴取	60
第10回 /	国会 国会の最高機関性 唯一の立法機関 衆議院の優越 国会議員の特権	講義	同上	60
第11回 /	内閣 財政 内閣の機能 内閣の衆議院の解散権 文民財政に関する憲法上の原則 租税法律主義	講義	同上	60
第12回 /	地方自治 民主主義の学校としての機能。地方自治の本旨と住民の直接請求権。	講義	同上 その他新聞、地域新聞を読む	80
第13回 /	憲法改正 裁判所 司法権の独立 大津事件 三審制度 違憲立法審査権	講義	NHK ニュース等を聴取	60
第14回 /	国際法 国際社会と法 国際法の特徴 国際公法と国際私法	講義	同上	60
第15回 /	国家・国民、平和主義、国民主権、基本的人権保障 の総括	講義	同上	80

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。</p>
--------	--

キーワード	<p>最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治</p>	学修教育目標	<p>本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。 また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。</p>
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p>
--

教科書	参考書・リザーブドブック
授業毎に資料を配布する。	講義の際に必要なに応じて紹介する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	法に基づく基本的人権を知る。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	グローバルな視点を身につける。	○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	個々の問題として解決する力を身につける。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	ビジネスにも活用する力を身につける。	△
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	福祉国家理念に基づく制約を知る。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	人権に沿った社会人としての自覚が持てる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価の 指標	知識に関する評価		20						20	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		19						21	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が80%であること。</p>					<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が60%～80%であること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	憲法を学ぶ ・憲法の意義、学び方 ・成績評価方法等	講義形式	憲法について予習すること	30
第2回 /	国民主権と天皇象徴制 ・主権とは何か。 ・日本国憲法における象徴の意味	講義形式	国民主権の意義と天皇制についての予習すること	30
第3回 /	国際協調主義 ・周辺諸国との領土問題 ・集団的自衛権	講義形式	国際協調主義について予習すること	30
第4回 /	平和と憲法 ・憲法9条の平和主義 ・国際協調主義・・・ウクライナ侵攻など時事	講義形式	平和主義について予習すること	30
第5回 /	憲法改正問題 ・憲法9条を中心とする憲法改正論議	講義形式	憲法改正問題について予習すること	30
第6回 /	基本的人権の尊重 ・基本的人権に関する基本原則と分類 ・世界情勢からみた日本の基本的人権	講義形式	基本的人権の意味・意義について予習すること	30
第7回 /	政治と憲法 ・政治のあり方（三権分立・議院内閣制等・国会） ・選挙制度（改正選挙法）	講義形式	三権分立・議院内閣制・選挙制度について予習すること	30
第8回 /	税金と憲法 ・納税の義務と租税法律主義	講義形式	納税の義務について予習すること	30
第9回 /	社会保障と憲法 ・生存権の基本権（生活保護など）	講義形式	社会保障について予習すること	30
第10回 /	報道と憲法 ・表現の自由・知る権利・報道の自由	講義形式	表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること	30
第11回 /	新しい人権・・・プライバシーと憲法 ・個人のプライバシー権と個人情報保護法	講義形式	新しい人権・プライバシー権について予習すること	30
第12回 /	刑事訴訟と憲法 ・奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	講義形式	刑事訴訟について予習すること	30
第13回 /	裁判所と憲法 ・法令審査権と三審制 ・裁判員制度	講義形式	裁判所について予習すること	30
第14回 /	地方自治法と憲法 ・地方自治制度と地方分権	講義形式	地方自治について予習すること	30
第15回 /	まとめ(1) (第1回からの内容のまとめを行う)	講義形式	これまでの授業の内容について復習すること	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	商学概論 Survey of Commerce	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>皆さんが商品（製品）を購入する、アルバイト先で商品（製品）を販売する。という行動は日常的なものです。しかしその商品（製品）がどのように製造されたか流通されたかを考えることはないのではないのでしょうか？ そもそも商業とはどのように発展し、現在に至っているのかを歴史的に認識することから始め、現在の商業の仕組み、ヒト、モノ、カネ、情報という経営の4要素を中心としたビジネスモデルの基礎知識を学ぶことを目的とします。</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	商業の歴史的背景（商人の登場） 商業における構造（小売・卸売業、現代の流通構造） 商業における関係（流通系列化、製販統合） 商業における行動（小売・卸売業者、商業革新）	学 修 教 育 目 標	ビジネスは「企業が利潤の追求を目的に営む経営活動」ですが、それ以外にも様々な活動を行っています。単に商品（製品）を販売して利益を得ることだけではありません。私たちの身近な企業活動を調査し、考察できることを目標とします。			
-----------------------	---	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

商人とはいつから登場したのか、歴史的な背景を説明します。次に流通構造の全体的な特徴がどのようにして決まるかという「構造」について説明します。商業とはどのような構造なのかを理解し、サプライチェーンまで発展して説明します。また企業活動と消費者等の連関の理解を進めます。企業が自社商品（製品）をどのように販売し、また消費者はどのような決定要因でその商品（製品）を購入するのか。ニュースなどで注目してください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<ul style="list-style-type: none"> ・他の科目との関連「流通システム論」「販売管理論」 ・自分自身が好きな、あるいは就職したい企業の活動を意識すること。 						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
書 名：商学入門 著者名：石川 和男著 出版社：中央経済社	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	企業のビジネスモデルを理解する。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	歴史的な商業の発展について、世界的な視野で理解できる。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	企業が公開する情報を分析することができる。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	商学の本質を学び、新しいビジネスモデルを構築する基礎知識を学ぶ。	△
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	身の回りの商品流通の仕組みを理解することで、社会の一員として貢献できる能力を得る。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に取り組む姿勢・意欲	◎
	② 働きかけ力	社会事象への問題意識	◎
	③ 実行力	企業情報の分析力	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を持ちテーマを明確にする。	○
	② 計画力	レポートを時間内にまとめることができる。	○
	③ 創造力	自分の考えが明確である。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを積極的に発言できる。	◎
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞き、理解できる。	△
	③ 柔軟性	アドバイスを理解し、修正できる。	○
	④ 状況把握力	他者の意見のすべてを理解し、取捨選択ができる。	◎
	⑤ 規律性	チーム内のルールを守る。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	困ったことやわからない事は、チームで共有できる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	授業中、他者の迷惑になるようなことをしない。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30		30					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20					40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
商業や流通に関する基礎的知識を十分理解している。 現在の商業や流通の変化について十分理解している。					商業や流通に関する基礎的知識を理解している。 現在の商業や流通の変化について理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス - 講義内容、講義の進め方、評価の方法等の説明 -	・シラバス内容や授業の進め方等について解説 ・学習メモ	・講義復習（60分）	60
第2回 /	商業における構造（1） 商業とは何か	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第3回 /	商業における構造（2） 小売商業の構造	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第4回 /	商業における構造（3） 卸売商業の構造	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第5回 /	商業における構造 これまでのまとめ	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第6回 /	企業情報から課題を選ぶ	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・課題作成（120分）	150
第7回 /	商業における関係（1） 商業におけるパワー関係	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第8回 /	商業における関係（2） 生産者による流通系列化	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第9回 /	商業における関係（3） 小売業者による製販統合	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第10回 /	商業における関係 これまでのまとめ	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第11回 /	商業における行動（1） 小売業者の行動	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第12回 /	商業における行動（2） 卸売業者の行動	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第13回 /	商業における行動（3） 商業における革新	・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第14回 /	企業情報からビジネスモデルを理解する。	・理解度チェック ・テキスト解説 ・学習メモ	・テキスト関係ページ予習（30分） ・課題作成の準備（120分）	150
第15回 /	授業のまとめ	・テキスト解説 ・学習メモ	・授業を振り返る（120分） ・課題作成の準備（120分）	240

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	社会と経営 Society and Management	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>地球温暖化を始めとして地球環境の悪化に対して様々な警鐘が鳴らされている。それに伴い企業の社会的責任もますます高まってきている。今や企業経営は環境を無視しては語れなくなってきており、なかでも ESG という言葉が注目されている。ESG とは、環境(E: Environment)、社会(S: Social)、ガバナンス(G: Governance)の英語の頭文字を合わせた言葉であり、企業が長期的に成長するためには、経営において ESG の 3 つの観点が必要だという考え方が世界中で広まっている。企業が ESG に配慮した経営をすることで、結果的にSDGs 達成に貢献できる、ということにも繋がる。ここでは、企業と経済・環境・社会といった様々な領域との関わりを議論し、社会の中で活動する企業の在り方を理解することを目的とする。</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	地球、環境、経営、経済、ESG、SDGs	学 修 教 育 目 標	<p>本講義では、ものとカネ一辺倒の経済の枠を超えて、社会の中で活動する企業の在り方を考えることができるようになることを目標とする。具体的には温暖化や水不足などの環境問題、人権問題や差別などの社会問題など、人類が直面する様々な問題において、企業と行政や個人の関わりを考えることができるようになることを目標とする。</p>			
-----------------------	----------------------	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<ul style="list-style-type: none"> ・テキストやプリント等を基に、各項目の基本的な考え方を講義する。 ・さらに映像・画像を交え視覚的にテーマを説明する。 ・授業終了後に課題を提示し、レポートを作成する。 ・テキストの他にも関連する多数の書物が図書館にも所蔵されている。興味を持てるテーマがあれば、ぜひ自ら深く調べてみる。 ・授業に関して、疑問の箇所があれば、次の授業までに理解しておくこと。 						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし						
------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	現在の経済社会が抱える環境問題を解決へと導くため、社会と経営の基礎知識を理解することができる。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異なる文化について理解することができる。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	様々な課題について考えることができる。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	サステナブルの実現について考えることができる。	△
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	多様性を受け入れ社会に貢献する力を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会と経営に関する議論に、すすんで取り組む姿勢を持つことができる。	○
	② 働きかけ力	社会と経営に関する知識を持って、目的を設定し行動することができる。	○
	③ 実行力	社会と経営に関する議論で、目的を設定し行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	社会と経営に関する議論で、目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	社会と経営に関する議論で、新しいアプローチを取ることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	社会と経営に関して、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	社会と経営に関して、相手の意見を丁寧に聴くことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		59					100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		19					30
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20		30					50
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		10					20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「社会と経営」に関する様々な話題に興味を持ち、自ら調べることができる。 「社会と経営」に関する様々な課題に関して、自ら行動することができる。 総合的な理解度が80%以上である。</p>					<p>「社会と経営」に関する様々な話題に興味を持つことができる。 「社会と経営」に関する様々な課題に関して、関心を持つことができる。 総合的な理解度が60～79%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス ① 本講義の進め方や受講上の注意事項 ② この授業の背景を解説する	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	シラバスの内容を事前に確認しておくこと。 この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	ガイダンスに関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第2回 /	経営の基本 ① 経営とはなにか ② どのような会社があるか	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	企業経営に関する問題点を理解し、自らの意見を提示できたか。			
第3回 /	環境問題の基本 ① 自然と生態系 ② 地球環境問題	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第4回 /	企業活動における環境問題 ① 製造業における環境問題 ② 価値連鎖	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第5回 /	SDGs ① SDGs 概説 ② 企業活動にとってのSDGs	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第6回 /	私達とSDGs ① 未来を変える ② 私達の行動を変える	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第7回 /	企業がやるべきこと ① 中小企業がやるべきこと ② 大企業がやるべきこと	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第8回 /	循環型社会（1） ① 3R ② プラスチック	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第9回 /	循環型社会（2） ① バイオマス ② 金属のリサイクル	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第10回 /	エネルギー ① 原子力発電、シェールオイル、など ② SDGs との関連	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第11回 /	温暖化と気候変動（1） ① 近年の動向 ② 起用変動問題の概要と科学的知見	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第12回 /	温暖化と気候変動（2） ① 国際的議論の潮流 ② 企業、経済活動と政策上の問題点	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第13回 /	働きがい ① 多様性 ② 働き方改革と経済成長	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第14回 /	未来を創造する（1） ① 技術と企業 ② デジタル化の社会を考える	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			
第15回 /	未来を創造する（2） ① 技術と企業（デジタル化と環境） ② 自分と未来	講義・資料提示・議論・レポート作成などを組み合わせて運営する。	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、わかりやすく表現する。次回のテーマに関して、自分で情報を入手する。	予習 30 復習 60
	この回で取り上げたテーマを、自らの視点で捉え直し、自らの意見を提示できたか。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	わかる数学 A Lucid Mathematics	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	将来ビジネスや生活の場において必要とされる資質のうち、論理的なものの考え方を培うとともに、数学についての幅広い素養を身に付ける。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	数と式、素数、因数、指数、対数、方程式、関数、円周率、幾何学、情報数学、経営数学	学修教育目標	数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。また、演習を反復することにより、論理的な思考力を高める。			
-------	--	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

数と式、方程式、関数等について基礎的な理解を深める。また、身近なできごとと数学との関連を意識した授業を展開し、実際に経営で使用する数学の基礎的な知識と技能を獲得するために、演習や実習を随時取り入れる。教科書とパワーポイントスライドの教材を配布して授業を行う。授業では単に説明を聞くだけでなく、課題解決のための方略や方法を思考し、課題を解くことを求める。筋道を立てたものの考え方に努めるとともに、計算をいわず数的処理能力の向上を目指すこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

基礎統計学、情報処理概論、経営科学、ミクロ経済学、マクロ経済学、情報通信ネットワーク、ロボットシステム。
授業で関数電卓（スマートホンなどに搭載）を使うので常時携帯しておくこと。専用の関数電卓があればなおよい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：改訂版 高校の数学 I・A が 1冊でしっかりわかる本 著者名：小杉 拓也 出版社：かんき出版	書名：数はふしぎ 著者名：今野 紀雄 出版社：SB クリエイティブ株式会社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	主体的に取り組む姿勢、問題発見力、課題解決力の比重が大きい。また、柔軟な考え方や創造性を育成できるように、数学を学ぶことで身に着ける。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、それに関する知識を身に着ける。	情報処理の基礎的な仕組み理解するのに必要な数学的知識を学習する。	○
③	国際理解・異文化理解ができる知識を身につける。	日常の経済活動の中に、国際的な感覚や多様性を理解できるように、多くの知識を身に着ける。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	経済の分析や予測、金融などに数学が応用されていることを認識するとともに、暗号技術や通信などの情報技術にも数学が応用されていることを認識する	○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	年金や保険など社会生活で数学が応用されていることを認識し、労働や生活で活用する数学的素養を身につける。	○
⑥	数学的な知性、教養をもって、社会に貢献する力を身につける。	社会の中で、数学的な考え方がどう生かされているか確認する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	成功体験を積むことで、次の課題へ取り組む力を身に付けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	何がどう問題なのかを明確にし、それをどのようにして解決するのかを考えることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	多くの場合、問題解決は一通りとは限らない。多様な方法を試みる力を身に付けることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		40				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20				5	40
	技能に関する評価		10		10					20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		10				5	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。身近なできごとと数学との関連を意識でき、実際に経営で使用する数学の基礎的な知識と技能を獲得する。</p>					<p>数や式、方程式や関数の意味や考え方について理解し、数学の発達や意義について理解することができる。実際に経営で使用する数学の概要について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	ガイダンス なぜ数学を学ぶのか － 社会と数学のかかわり － 数の発見、0の発見	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第2回 ／	数と式（1） 正数と負数、加算と乗算、項、交換法則	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第3回 ／	数と式（2） 逆数、減算と除算、倍数、約数	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第4回 ／	数と式（3） 単項式と多項式、次数と係数、等号と不等号、偶数と奇数	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第5回 ／	数と式（4） 因数と素数、素因数分解、エラトテネスの篩	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第6回 ／	数と式（5） 因数分解、平方根、平方根の性質、循環小数、有理数と無理数	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第7回 ／	方程式（1） 方程式とは、方程式の解、等式の性質、移項	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第8回 ／	方程式（2） 分数、解の吟味、連立方程式の解、等式の性質、加減法、代入法	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第9回 ／	方程式（3） 解とグラフ、2次方程式と解法、重根、実数と虚数	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第10回 ／	関数（1） 座標平面、比例の関係とグラフ、変域	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第11回 ／	関数（2） 反比例、双曲線、比例定数、1次関数	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第12回 ／	関数（3） 2次関数、放物線、変化の割合、微分概念	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第13回 ／	幾何学 ギリシャ幾何学、円周率、円の面積、ピタゴラスの定理、体積	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第14回 ／	情報と数学 2進法、情報量、アルゴリズム、最適化百分率、比例、変化率、利率、ローン返済	講義、演習	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	演習用シートもしくはコメント用シートを提出			
第15回 ／	試験に向けての対策、レポート等の提出確認	講義、演習	学修したことがらの復習 学修内容の予確認	復習 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	情報と職業 Information and Profession	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育、ビジネス、医療、行政などさまざまな分野にコンピュータが普及し、より高度化、複雑化した社会になっている。このような状況の中にあつて、ハードウェアの製造、ソフトウェアによる情報サービスの提供、情報システムの開発、情報コンテンツの制作、情報通信ネットワーク関連業務などの情報産業の内容や状況を理解し、情報産業に携わる職業人として求められる資質・能力や、真に目指す情報社会のあり方についての的確に考察できる力を身につける。</p>	
	キーワード	<p>情報社会、情報産業、情報ネットワーク、業種、職種、IT技術者、情報セキュリティ、情報倫理と業務、職業観</p>
	学修教育目標	<p>情報社会や情報産業に関する知識を深め、情報技術の進化が社会に及ぼす影響に関して考察することができる。また、情報産業の構造や情報関連の職業人として求められる資質・能力や、情報や労働に関連する法について理解し、情報社会における働き方の変化や職業観について考察できる教養を身に付ける。</p>

授業科目の概要及び学修上の助言

情報産業の構造や情報関連の職業人として求められる資質・能力や、情報や労働に関連する法について理解し、情報社会における働き方の変化や職業観について学ぶ。また、AIなど、新しい情報技術や革新的な情報システムの普及が、労働環境や雇用に与える影響等について取り扱う。基本的には講義形式で授業を進めるが、理解や認識を促進するために情報技術に関する最新動向をビデオ教材で紹介したり、討論などを織り交ぜた授業を展開したりしていく。また、適宜、「TGU e-Learning」を通じて教材を配布して学修方法を示し、授業中にパソコンやスマートフォン等を使用して課題を実施することもある。したがって、ノートPCなどを持参して「TGU e-Learning」を利用することができるようにしておく。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

情報の倫理、情報処理概論、ソフトウェアリテラシーⅠ、ソフトウェアリテラシーⅡ、経営情報論、流通システム論、フィナンシャル・プランニング、販売管理論、経営分析論、生産管理論、ミクロ経済学、マクロ経済学、プログラミングⅠ、プログラミングⅡ、情報通信ネットワーク、データベース論、データベース演習、システム設計論、システム設計演習、セキュリティ管理、経営シミュレーション、経営科学

教科書	参考書・リザーブブック
なし（適宜、プリント教材等を配布する）	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	情報産業関連企業におけるビジネスの仕組みや役割、情報産業における職業分類と相互の関連について理解する。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	eビジネスなど情報技術を活用した経営方法や、情報技術による経営のイノベーション（DX）について理解する。	△
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	情報産業として持続可能な開発に関するグローバルな課題解決について貢献する事例について学ぶ。	△
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	情報産業が抱える課題について、データを用いて分析して課題解決を行う事例について学ぶ。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報産業や情報通信技術の進展が、経営・経済に与える影響について理解し、新しいビジネスを創出する事例とその影響について学ぶ。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	情報社会の職業人として働く時に求められる資質や能力について理解し、情報を取り扱う倫理観や職業観について考察することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	情報化と雇用・産業構造の現状について考えることができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	情報の特性、職業観、産業構造の変化を理解する中で、情報社会に関する認識を深め、問題に気付く能力を高める。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	情報の特性や情報技術を考察して、今日進展している情報社会の本質を理解することができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	情報社会における個人のモラル意識や、情報産業で働くための職業観や職業倫理について認識を持ち、考察できる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				20	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>情報社会や情報産業について幅広く理解し、情報技術の進化が社会に及ぼす影響に関して考察することができるとともに、情報産業の構造や情報関連の職業人として求められる資質や能力について理解し、情報に関連する法も視野に入れて、総合的に情報社会における職業の在り方や望ましい職業観について考察することができる。 各学修項目の理解度が80%以上である。</p>					<p>情報社会や情報産業について概況を理解し、情報技術の進化が社会に及ぼす影響に関して考察することができるとともに、情報産業の構造や情報関連の職業人として求められる資質や能力や情報に関連する法についての基礎を理解し、情報社会における職業や職業観について考察することができる。 各学修項目の理解度が60%～80%未満である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	情報社会と情報技術 20世紀に発明されたコンピュータやインターネット等の情報通信技術によって情報社会が誕生し、進展したことを学ぶ。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習 レポート課題（第1回）の作成開始	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第2回 /	コンピュータの進化と社会の変革 コンピュータの性能向上や利用形態の変化とそれに伴う社会や産業の変革について理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第3回 /	新しい情報技術とこれからの社会 IoT（Internet of Things）やビッグデータの解析、AI等の革新的な情報技術が、今日の社会基盤を広範囲に変革させている状況を理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第4回 /	情報技術の進展と職業の変化 AI等の新しい情報技術の登場で、産業構造や就業構造の変化について学び、身につけるべき資質や能力について考察する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習 レポート課題（第2回）の作成開始	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出。レポート課題①を提出。			
第5回 /	情報産業と国際化 インターネットによる情報技術革命、情報産業とグローバル化の関連などについて学ぶ。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第6回 /	情報産業の業種 日本標準産業分類に基づいて、情報産業の業種（事業の種類）について理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第7回 /	情報産業の職種 日本標準職業分類に基づいて、情報処理・通信技術者の職種について理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第8回 /	情報技術者に求められる資質と能力 ITスキル標準に基づいて、情報技術者の各職種の仕事内容、および仕事の流れや連携について理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習 レポート課題（第3回）の作成開始	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出。レポート課題②を提出。			
第9回 /	情報コンテンツ産業 情報コンテンツ産業に従事する情報技術者の各職種の仕事内容、求められる資質と能力について理解する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第10回 /	知的財産の保護と活用 情報産業と知的財産のかかわりについて学び、多様化していく知的財産権にかかわる諸問題について認識を深める。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第11回 /	情報セキュリティとリスク管理 サイバー犯罪等の情報に関するリスクの実態およびリスク回避について学び、情報セキュリティの確保についての意識を高める。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第12回 /	個人情報の保護とデータの活用 個人情報保護法で規定されている個人情報取扱事業者の義務について理解するとともに、収集した消費者データの活用について考察する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習 レポート課題（第4回）の作成開始	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出。レポート課題③を提出。			
第13回 /	情報公開と信頼 情報公開、とりわけトラブル情報とその対策についての公表が、企業と消費者の信頼関係の維持にどのように作用するかについて学ぶ。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第14回 /	職業人としての情報倫理 情報産業に携わる職業人として守るべき情報の倫理について学ぶ。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習 次回の学修内容の予習	復習 30 予習 30
	コメントシートを提出			
第15回 /	情報社会における職業観 情報社会に進展に伴う労働環境と職業観の変化について理解する。 学修のまとめと学期末試験の説明	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	学修したことがらの復習	復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題④を提出。			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	アセンブリ・アワー Assembly Hour	4単位	選 択	講 義	1年次・ 2年次	春学期・ 秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、将来、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、学修研究に対する具体的な取り組み方、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。	
	キーワード 社会人力 スタディスキル アカデミック・ライティングのスキル コミュニケーション	学修教育目標 個人及び社会の一員としての在り方を理解し、学生生活を充実させ、将来の生き方と進路の適切な選択決定ができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

この演習では、本学の学生としての自覚を養い、大学生活に必要な基本的なマナーの理解を深める。
また、大学で勉学を進めていく上で基礎となる、スタディスキルを身につける。具体的には、日頃のレポート課題や卒業研究に必要なアカデミック・ライティングのスキルを高める学習を進める。そして、グループワークを通して意見交換を行い、グループの意見をまとめ、他者にわかりやすく説明できる基礎的なプレゼンテーションの技能・マナーを身につける。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

経営学部全ての講義に通ずる演習である。緊張感を持続させながら演習に取り組んでください。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：大学生 学びのハンドブック [6訂版] 著者名：世界思想社編集部(編集) 出版社：世界思想社編集部	なし
--	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	チームで協力しながら、課題の解決方法を検討し、計画を立てて実行する力を身に付ける。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	他国や各地域から入学した留学生や学生と交流し、協働して活動することで、国際理解や異文化理解のための知識や技術を身に付ける。	○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	大学が提供する学修支援システムを利用して、実際に情報を収集したり、発信したりすることを通じて、本学で求められる基本的な ICT の活用について理解し、ICT を使えるようになる。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	大学での学び方と社会との関わり方が理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。	○
	② 計画力	時間内にレポート課題を計画的に進めることができる。	◎
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章で解りやすく説明することができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性	自分のルールやり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
大学生生活に必要な基本的なマナーを理解し、身につけることができる。					他者と協力し共同作業ができるようになる。					

学則第22条1項(2)認定評価 (RもしくはE) による評価

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	<p>【1年次】 春学期：大学での学び①（高校での学びとの違い：主体的に学ぶ） 秋学期：学修の振り返り①（春学期の成績確認、振り返り、秋学期の目標設定等）</p> <p>【2年次】 春学期：ガイダンス（アセンブリ・アワーの目的とルール、成績評価の方法、個人面談の案内、マンダラチャートの作成） 秋学期：ガイダンス（アセンブリ・アワーの目的とルールの再確認、副専攻プログラム、性格診断テストエゴグラム）</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第2回 /	<p>【1年次】 春学期：大学の情報システムの利用（My TGU.net、TGU e-Learning、メールの送受信ほか） 秋学期：将来の進路を考える（業種・職種研究、就職シートの記入）</p> <p>【2年次】 春学期：学修のふりかえり（学修のふりかえりシートへの入力） 秋学期：学修のふりかえり（学修のふりかえりシートへの入力）</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第3回 /	<p>【1年次】 春学期：チームビルディングⅠ（チームでストロータワーを創る） 秋学期：チームビルディングⅡ（チームでペーパータワーを創る）</p> <p>【2年次】 春学期：社会・キャリアを知る「スタートアップセミナー」 秋学期：インターンシップ（アルバイトとの違い、企業の目的、学生のメリット、種類と参加時期、探し方と参加条件） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第4回 /	<p>【1年次】 春学期：大学での学び②（スタディスキルを身に付ける：レポートの書き方） 秋学期：学生生活のサポート（学生生活のマナー、被害に遭わないための諸注意）</p> <p>【2年次】 春学期：就職活動の重要性（人材採用の種類、正規雇用と非正規雇用の違い、就職活動のスケジュール、就職試験の選考方法） 【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：「履歴書・エントリーシート作成セミナー」①（志望動機・自己分析・自己PR・学チカ）</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第5回 /	<p>【1年次】 春学期：大学での学び③（資料の探し方、図書館の利用、研究倫理教育） 秋学期：ミニPBLⅡ（1）（学生生活での問題解決：経験や記事から問題発見）、並行して個人面談①</p> <p>【2年次】 春学期：将来のお金について考える（給与明細、税金と保険、収入と支出の例、働いて収入を得る意味、働く価値を高める） 【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：「履歴書・エントリーシート作成セミナー」②（志望動機・自己分析・自己PR・学チカ）</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第6回 /	<p>【1年次】 春学期：PROG 結果配付及び説明会 秋学期：ミニPBLⅡ（2）（グループでの問題共有、問題の選択と明確化）、並行して個人面談②</p> <p>【2年次】 春学期：「インターンシップ説明会」※並行して個別面談 秋学期：さまざまな産業と生み出される商品やサービス（業界・業種とは、ビジネスモデルでの分類、代表的な業界） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
第7回 /	<p>【1年次】 春学期：学修の振り返り（学修の振り返りシートへの入力） 秋学期：ミニPBLⅡ（3）（グループで解決案の立案と選択）、並行して個人面談③</p> <p>【2年次】 春学期：多様な働き方（職業分類、業種と職種、総合職と一般職、キャリアをデザインする、働き方による仕事の選び方） 【時事問題・一般常識小テスト】※並行して個別面談 秋学期：「業界・業種研究セミナー」</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第8回 /	<p>【1年次】 春学期：避難訓練 秋学期：学修の振り返り②（学修状況を振り返り、学期末に向けての学修を計画）</p> <p>【2年次】 春学期：「社会人基礎力・ジェネリックスキル育成セミナー」 ※並行して個別面談 秋学期：学修のふりかえり（学修のふりかえりシートへの入力）</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（1）（問題発見：新聞記事から経済・経営の問題を見つける）、並行して個人面談① 秋学期：ミニ PBL II（4）（グループで問題解決の発表用スライド作成）、並行して個人面談④</p> <p>【2年次】 春学期：学修のふりかえり（学修のふりかえりシートへの入力） ※並行して個別面談 秋学期：「先輩からのメッセージ」</p>			
第9回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（2）（グループで取り組む問題の決定、問題の明確化）、並行して個人面談② 秋学期：ミニ PBL II（5）（取り組みの発表会）</p> <p>【2年次】 春学期：「社会人としてのビジネスマナーセミナー」 秋学期：職業を知る①若者仕事図鑑ビデオの視聴（グランドハンドリング）【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（3）（解決案を考える）、並行して個人面談③ 秋学期：キャリア関係ビデオの視聴（将来の進路を考える）</p> <p>【2年次】 春学期：学生のための研究倫理教育【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：職務適性テスト（キャリアタス就活「自己分析・自己発見のための職務適性テスト」）</p>			
第10回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（4）（問題解決の発表用スライド作成）、並行して個人面談④ 秋学期：資格・免許取得のために（IT パスポート等、経営・情報に関する資格等）</p> <p>【2年次】 春学期：社会保険制度・労働関連の法律（社会保険の種類、加入対象者、保険料の支払い、労働基準法、育児介護休業法） 【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：2025年度のゼミ登録（ゼミとは、卒業論文とは、ゼミの選び方、研究室訪問、希望のゼミに入るためには） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：講演会（大阪府・市の観光振興策と経済政策等） 秋学期：講演会（金融・経済教育関係）</p> <p>【2年次】 春学期：金融と経済（経済指標、景気循環、需要と供給、インフレとデフレ、金融のしくみ、3つの経済主体、外国為替） 【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：職業を知る②若者仕事図鑑ビデオの視聴（家電量販店） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>			
第11回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>			
第12回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>			
第13回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>			
第14回 /	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	講義 デジユメ配布	<ul style="list-style-type: none"> 学修したテキストの復習 次回の学修内容の予習 	予習 30 復習 30
	<p>【1年次】 春学期：ミニ PBL I（5）（取り組みの発表会） 秋学期：経営学部の3つのコース、主専攻・副専攻（2年生以降の経営学部での学びに向けて）</p> <p>【2年次】 春学期：「面接対策セミナー」 秋学期：職業を知る③若者仕事図鑑ビデオの視聴（電車製造技術者） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>			

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 15 回	<p>【1 年次】 春学期：学期末試験に向けて（受験上の諸注意、夏休みの過ごし方について） 秋学期：学期末試験に向けて（受験上の諸注意、春休みの過ごし方について）</p> <p>【2 年次】 春学期：さまざまな資格（資格取得のメリット、各業界への就職に有利な資格、大学推奨の対面講座・オンデマンド講座） 【時事問題・一般常識小テスト】 秋学期：面接・グループディスカッションの心得（目的、何を見られるか、質問例・テーマ例と事前準備） 【時事問題・一般常識小テスト】</p>	<p>講義 デジユメ配布</p>	<p>・学修したテキストの復習</p>	<p>復習 30</p>

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	キャリア開発入門 Help for Finding a Job	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	就職とはどういうことなのか、職業生活にはどのように参入するのか、というテーマを中心に自分の人生について総合的なプロデュースを行えるような講義内容とする。言い換えると、自分の今後のキャリアを構想し、その見える化を通じて、自分の人生を自身で切り開いていけることを学修の目的・目標としている。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	キャリア、ライフコース、就職、職業生活 キャリアデザイン：生き方のプロデュース	学修教育目標	自分の今後のキャリアを構想し、その見える化を図る。
-------	--	--------	---------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

授業の内容や小レポート・ワークシート提出等を通じて、自分のキャリアに対する気づきを「見える化」することで自己理解を促進する。それをベースに自分のキャリアについて具体的に考えられる、自分の人生を自身で切り開いていける力を身につける。 また「就活」に関する必要な知識や情報を提供し、学生が主体的・積極的に活動できるよう就職活動支援とする。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「キャリアデザイン」、「ビジネスコミュニケーション」、「フィナンシャルプランニング」等と関連する。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：大学生のためのキャリアデザイン入門 著者名：岩上真珠・大槻奈巳 出版社：有斐閣	書名：キャリアデザイン論 著者名：安武伸朗・坪井晋也 出版社：創成社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	自己とキャリア、職業について理解を深める。専門用語を学ぶ。	◎
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	日頃から関連情報（報道・新聞雑誌等）に注意を払う。	○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。		
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	社会人基礎力について理解・強化し、社会人としての対応力を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に取り組む姿勢・意欲	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	予習・復習	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を持ち課題に取り組む。	○
	② 計画力	レポートを時間内にまとめることができる。	○
	③ 創造力	自分の今後のキャリアを構想できる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えを積極的に発言できる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞き、理解できる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	授業のルールを守る。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中、他者の迷惑になるようなことをしない。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		40				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		15		20				6	41
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20				9	49
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自分のキャリアデザインが見える化できる。					自分のキャリアデザインを構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・シラバス内容や授業の進め方等について解説 ・学習メモ	・講義復習（60分）	60
第2回 /	ライフコースを知ろう 自分史ワークシート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック ・ワークシート作成	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第3回 /	「大人」になることの意味 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第4回 /	働くことを考える 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第5回 /	変化の中の若者と意識 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第6回 /	大学から労働への移行 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第7回 /	企業のフレキシビリティと労働者のキャリア 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第8回 /	前半講義の振り返り、社会人基礎力ワークシート ワークシート	・前半講義解説 ・学習メモ ・ワークシート作成	・講義復習（60分）	60
第9回 /	ワーク・ライフ・バランス 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第10回 /	世界を見据えたキャリアのあり方 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第11回 /	学びをいかし深める 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第12回 /	人生のロールモデルを探す 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第13回 /	なぜいまキャリアデザインか 小レポート	・テキスト解説 ・学習メモ ・理解度チェック	・テキスト関係ページ予習（30分） ・講義復習（60分）	90
第14回 /	後半講義の振り返り、職業分析 ワークシート	・後半講義解説 ・学習メモ ・ワークシート作成	・講義復習（60分）	60
第15回 /	まとめ、自己のキャリアデザイン	・講義全体の振り返り ・キャリアデザイン解説 ・学習メモ	・講義復習（60分）	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	キャリアデザイン Career Design	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の人生を前向きにとらえ、将来を描き、学生生活を有意義なものにする。 ・企業が求める能力、社会人基礎力の重要性を理解し、授業中だけでなく、日頃から高めるよう意識づける。 ・自己理解、職業理解を深める。 ・社会貢献の意識を高める。 					
	キーワード	自己理解 職業理解 未来を描く 心・技・体 社会人基礎力の向上 就職活動 キャリア形成	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに人生をとらえ、自立的にこれからのキャリアを描く。 ・社会人基礎力、特にチームワーク力・コミュニケーション力を高める。 ・さまざまな業界、職種について知り、仕事の関心度を高める。 ・自分自身の強みを発見し、社会でいかに働くか、貢献していくかの具体的なイメージを描く。 ・就職活動に、前向きな気持ちでスタートできるよう行動目標を持つ。 		

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>今～将来に向けての人生（特に仕事人生）を具体的にイメージできるように自己分析し、さまざまな職業について学びます。自分にあった仕事をみつけ、仕事に就くための基本スキルを高めましょう！ 知識を身に付ける（インプット）だけでなく、成果を出すこと（アウトプット）を重視しています。 楽しく学び合い、充実した学生生活と将来に活かしてください！</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会人基礎力 「ビジネスコミュニケーション」 「プレゼンテーション実習」 「ホスピタリティ・マネジメント」

教科書	参考書・リザーブブック
使用せず	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	企業のことを知り、その中で、どのような役割を担っていくか考える。 社会人として必要なスキル・社会人基礎力を高める必要性を理解し、授業を通してスキルを高める。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	企業が行っているDX戦略をはじめ、様々な取り組みについて調べ、理解を深める。	△
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	企業が行っている国際戦略をはじめ、様々な取り組みについて調べ、理解を深める。	○
④	ビジネスデータを活用できる課題解決力を身につける。	企業情報や就職情報など、今後の自らの課題に必要な情報をインターネットから取り出せる。 チームで情報共有し、課題に取り組む。パワーポイントを使って資料作成する。	△
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	発想力、創造力のポイントを理解し、応用する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	社会人にインタビューを行い、傾聴力、共感力、情報収集力を身につける。グループディスカッションで気づきを得る。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	やらされているのではなく、自ら目標を持ち主体的に授業に取り組むこと。	◎
	② 働きかけ力	グループワークにおいて、メンバーに積極的な意見交換や行動を促す働きかけをすること。	◎
	③ 実行力	ワーク等、積極的に取り組む。進んで発表する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ものごとの改善点を見出す。うまくいかないことに対して、解決策を見出す。	◎
	② 計画力	短期目標、中期目標、長期目標を立てる。	◎
	③ 創造力	企画のポイント、アイデア発想法を身に付ける。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	相手に伝えるための話し方を身に付ける。気持ちを伝える。正確に伝える。	◎
	② 傾聴力	気持ちを聴く、事実を正確に聴き、理解するスキルを身に付ける。	◎
	③ 柔軟性	さまざまな人の考え方、価値観があることを尊重し、理解する。	◎
	④ 状況把握力	今、どんな言動、行動をすべきか考え、実行する。	◎
	⑤ 規律性	欠席、遅刻をしない。やるべきことを期限内になしとげる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	授業を楽しむ気持ちを持つ。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	互いに協力しあう姿勢を持つ。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	15	30	9			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5		10					15
	技能に関する評価		6	5	5				2	18
	応用力に関する評価		10		5	2				17
	チームワークに関する評価		10	5		5			3	23
	関心・意欲に関する評価		10	5	10	2				27
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自分にあった業界、職種、企業を見つけ、就職活動を成功に導く。 自分の使命・目標を見出す。 社会人基礎力の各スキルが向上している。 まわりの人に良い影響を与える。					自己理解・職業理解ができ、理想の将来像を描く。 社会人基礎力の各スキルを理解し、向上を心がける。 コミュニケーション力が高まっている。 思いやりを持った行動ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	キャリアデザインについて ①授業のねらい・取り組み方 ②人の成長段階（エリクソン ライフサイクル論） 授業の取り組み方 実習の積極的参加	講義と実習	授業で学んだこと、考えたこと （課題）私が大切にしたい思い・アイデンティティは？	20
第2回 ／	コミュニケーションの基本 非言語・言語 話す・聴く ①コミュニケーションの重要性 ②伝えるための話し方 ③理解するための聴き方 グループワークの取り組み方	講義とグループワーク	結論から話すトレーニング授業の復習・実践	20
第3回 ／	グループディスカッション ①グループディスカッションを円滑に進めるポイント ②実習 ③グループディスカッション面接のポイント グループワークの取り組み方	講義とグループワーク	授業の復習・実践	20
第4回 ／	企業の目的と社会的役割 - 経営理念について ・ CSR ・ SDG s 等について ・ 企業戦略について DX等 授業の取り組み方 宿題	講義とグループワーク	企業の経営理念・事業内容等について調べる （予習・復習） 課題の取り組み	40
第5回 ／	顧客満足 - 企業や役所などにおけるCS活動の取り組みについて - 講義 レポート作成 授業の取り組み方 レポートの内容	講義と個人ワーク	企業等のCS活動の取り組みについて調べる 課題 レポート作成	20
第6回 ／	職業理解 業種・職種について 宿題の発表 授業の取り組み方 発表の仕方 課題レポートの内容	講義とグループワーク	この授業までに、社会人2人以上に、仕事内容ややりがい等についてインタビューし、レポートを作成する 課題 コメントシート	40
第7回 ／	企画力入門（創造力） ①企画力を高めるには ②アイデア発想法 ③グループワーク グループワークの取り組みの成果	講義とグループワーク	授業の復習・実践	20
第8回 ／	計画力 ①仕事の中での計画力 ②人生を考える上での計画力（長期目標～短期目標） ③個人ワーク 授業の取り組み方、計画シートの作成	講義と個人ワーク	授業の復習・実践 課題 ワークシート	30
第9回 ／	社会人基礎力自己確認 ①自分の強みを探る ②個人ワーク ③自己PR文作成 授業の取り組み方	講義と個人ワーク	授業の復習 課題 自己PR文の完成	30
第10回 ／	仕事の興味 価値観 志望動機作成のポイント ①ホランド理論 ②個人ワーク ③ペアワーク ペアワークの取り組み方	講義と個人ワーク・ペアワーク	授業の復習 課題 ワークシート	20
第11回 ／	グループワーク ～社会人になってみよう (1) ①グループ間の相互理解を深める ②チームワーク形成 グループワークの取り組み方	講義とグループワーク	グループ発表の準備	30
第12回 ／	グループワーク ～社会人になってみよう (2) ①企業について調べ、その入社したらどんな仕事につくか考える ②グループ発表の計画・役割分担 グループワークの取り組み方	講義とグループワーク	グループ発表の準備	60
第13回 ／	グループワーク ～社会人になってみよう (3) ①会社説明会の実施（グループプレゼンテーション） ②評価シート作成 グループ発表の成果 グループ発表評価シートの内容	講義とグループワーク	授業の復習	20
第14回 ／	グループワークの振り返り PDCA サイクル ①成果 ②チームワーク力を高めるために③お互いの強み分析 授業の取り組み方 グループワークの取り組み方	講義とグループワーク	授業の復習 課題 ワークシート	20
第15回 ／	これからのキャリアデザイン 就職活動に向けて 授業の取り組み方	講義と実習	授業の復習	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	ビジネスコミュニケーション Business Communication	2単位	必修	講義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本学を卒業して就職し、ビジネスパーソンとして活躍する際には、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力、ビジネスマナー、礼儀作法、仕事への取り組み姿勢等、多岐に渡る能力が求められる。</p> <p>本科目では、社会人として望ましい心構えやビジネスマナーの学修を通して、良好な人間関係を作り出せる資質の涵養を目指す。</p> <p>また、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目標とし、知識として「知る」だけでなくすぐに役立てることができるよう、ビジネスにおける一般常識、コミュニケーションスキルを言語と非言語の両面から学修する。</p> <p>あわせて、学期末に学内で実施する検定「ビジネス能力検定ジョブパス3級」合格を目指す。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	コミュニケーション、キャリア、就職、職業生活、就業力、人間力 ビジネスマナー、接客マナー、ビジネス文書	学修教育目標	① 他者との意志の疎通、確認におけるコミュニケーションの重要性を認識することができる。 ② 対人関係について理解し、的確な判断、自信を持った発言や行動ができる。 ③ ビジネスの諸活動を円滑に行う知識・態度を身につけることができる。 ④ 社会の一般常識や求められる人物像を理解することで、自分の強み・弱みを発見できる。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

本科目では、年齢、考え方、立場の違う様々な人々と意思疎通を図り、円滑な人間関係を築きながら協力して働いていくためのコミュニケーション能力の習得を目指します。近い将来に向けて仕事のイメージを膨らませると同時に、準社会人であるとの自覚をもってビジネスシーンの基本的なルールやマナー、考え方を学修しましょう。授業中に行う講義、演習、他者とディスカッションは、予習や復習を行うことにより実りあるものになります。授業外学修として教科書精読とふりかえりをしっかりと行ってください。履歴書に書ける資格として「ビジネス能力検定ジョブパス3級」合格を目指してください。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「コミュニケーション論」、「キャリアデザイン」、「キャリア開発入門」等と関連する

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：2024年版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト 著者名：一般財団法人 職業教育・キャリア養育財団 出版社：日本能率協会マネジメントセンター	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	仕事の基本となる意識、基本的なコミュニケーションといった、職業人として身につけておくべき知識を理解する。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	就職活動はもちろん、組織で働く上で不可欠なビジネスマナーの基本を理解する。	○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報を収集、分析して新しいビジネスへ活かす必要性を理解する。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	ビジネス知識を持ち、仕事の場面で取るべき行動と仕事への取り組み方を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類（4つの力）	能力要素（13の要素）	授業科目における育成目標（※2）	
1.一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	授業の予習・復習、課題などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2.あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。	△
	② 計画力		
	③ 創造力	固定概念に捉われることなくあらゆる方向からものごとを考えることができる。	○
3.チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	言葉（文章）や図などで自分の意見をわかりやすく相手に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境をつくり、意見を聞きだすことができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	周りの状況を判断し、自分の役割を担うことができる。	○
	⑤ 規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語等講義に支障をきたす行動はせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4.倫理観	① 倫理性	ルールや規則の遵守だけでなく、道義的に行動することができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		20			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30	10						40
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		20	10						30
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
① 他者との意志の疎通、確認におけるコミュニケーションが取れる。 ② 対人関係について理解し、的確な判断、自信を持った発言や行動ができる。 ③ ビジネスの諸活動を円滑に行う知識・態度を身につけることができる。 ④ 社会の一般常識や求められる人物像を理解することで、自分の強み・弱みを発見できる。					① 他者との意志の疎通、確認におけるコミュニケーションの重要性を認識できる。 ② 対人関係について理解し、的確な判断ができる。 ③ ビジネスの諸活動を円滑に行う知識を身につけることができる。 ④ 社会の一般常識や求められる人物像を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間（分）
第1回 /	授業ガイダンス・ビジネス能力検定について キャリアと仕事へのアプローチ	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第2回 /	仕事の基本となる8つの意識	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第3回 /	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第4回 /	指示の受け方と報告、連絡・相談 クレーム対応	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第5回 /	話し方と聞き方のポイント	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第6回 /	来客対応と訪問の基本マナー	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第7回 /	会社関係での付き合い	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第8回 /	仕事への取り組み方	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第9回 /	ビジネス文書の基本	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第10回 /	電話対応	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第11回 /	統計・データの読み方・まとめ方	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第12回 /	情報収集とメディアの活用	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第13回 /	会社を取り巻く環境と経済の基本 ビジネス用語の基本	講義 グループワーク	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	グループワークへの参画および、小テストまたは課題			
第14回 /	ビジネス能力検定ジョブパス3級過去問	講義	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	過去問への取り組み			
第15回 /	ビジネス能力検定ジョブパス3級過去問	講義	予習：今回学修する教科書範囲の精読 復習：今回学修した内容のふりかえり	予習 30 復習 30
	過去問への取り組み			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	インターンシップ（コーオプ） Internship (Part-time Job)	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	学生自身がインターンシップ活動を通して社会や職業における様々な課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を向上することを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	職務体験、職業選択	学修教育目標	インターンシップ活動に参加し、インターンシップについて理解することができる。社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。			
-------	-----------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

学生が社会に出る前に職業体験をするインターンシップ制度がある。この実習プログラムに参加することはコーオプ時に築いた業界ネットワークを通じて就職活動の輪を広げるだけでなく、卒業後にコーオプ時に働いたところに就職する学生も少なくないので目的意識をもって参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

インターンシップはボランティアと関連があるが、知識習得の目的のインターンシップと知識・技術を提供するボランティアと識別すべきだ。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	組織の役割や活動を理解する。	○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。		
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	組織で働く上で、仕事を上手に進めるための礼儀作法が理解できる。	○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。		
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報通信技術を用いた新たなコミュニケーションの重要性が理解できる。	○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	組織の一員として働くルールを知り、社会に貢献する仕事の進め方が理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に毎回出席する。	◎
	② 働きかけ力	グループワークで問題を発見する。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	課題演習でどこに問題があるか創造する。	○
	② 傾聴力	グループワークで他の学生の意見を聞く。	◎
	③ 柔軟性	グループワークで問題に突き当たった時に発想を柔軟にする。	◎
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	授業に休まずに出席できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	職業倫理の考えを理解する。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
インターンシップは、ただの職業体験ではなく、様々な形態が存在しているのでその選択肢の中から自分にあったインターンシップを見つけることを目指す。					自分の目的に合わせて参加するインターンシップを選ぶ。ただ参加するだけでは時間の無駄になってしまうので自分の目的をしっかりと明確にしてから参加するインターンシップを選ぶようにする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導（オリエンテーション）	座学	実習先へインターンシップ実習の受け入れについて依頼する	90
第2回 /	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第3回 /	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第4回 /	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第5回 /	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第6回 /	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第7回 /	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第8回 /	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第9回 /	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第10回 /	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第11回 /	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第12回 /	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第13回 /	実習（12）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第14回 /	実習（13）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第15回 /	事後指導	座学	事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	インターンシップ（学校） Internship (School)	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	インターンシップ（学校）は、学生自身がインターンシップ活動を通して社会と教育とに関わる中で、積極的に学校活動に従事し、様々な問題に前向きに取り組もうとするインターンシップ精神を身につけることを目的とする。					
	キーワード	学修教育目標	インターンシップ活動に参加し、インターンシップについて理解することができる。社会での教育活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。			

授業科目の概要及び学修上の助言

学生が社会にでるまえに職業体験をするインターンシップ制度がある、その中で教職活動などの学校で実習するインターンシップである。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

インターンシップはボランティアと関連があるが、知識習得の目的のインターンシップと知識・技術を提供するボランティアと識別すべきだ。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	組織の役割や活動を理解する。				○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	組織で働く上で、仕事を上手に進めるための礼儀作法が理解できる。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報通信技術用いた新たなコミュニケーションの重要性が理解できる。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	組織の一員として働くルールを知り、社会に貢献する仕事の進め方が理解できる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に毎回出席する。				○
	② 働きかけ力	グループワークで問題を発見する。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	課題演習でどこに問題があるか創造する。				○
	② 傾聴力	グループワークで他の学生の意見を聞く。				○
	③ 柔軟性	グループワークで問題に突き当たった時に発想を柔軟にする。				○
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	授業に休まずに出席できる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	職業倫理の考えを理解する。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
インターンシップは、ただの職業体験ではなく、様々な形態が存在しているのでその選択肢の中から自分にあったインターンシップを見つけることを目指す。					自分の目的に合わせて参加するインターンシップを選ぶ。ただ参加するだけでは時間の無駄になってしまうので自分の目的をしっかりと明確にしてから参加するインターンシップを選ぶようにする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導（オリエンテーション）	座学	実習先へインターンシップ実習の受け入れについて依頼する	90
第2回 /	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第3回 /	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第4回 /	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第5回 /	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第6回 /	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第7回 /	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第8回 /	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第9回 /	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第10回 /	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第11回 /	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第12回 /	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第13回 /	実習（12）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第14回 /	実習（13）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第15回 /	事後指導	座学	事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	インターンシップ（企業） Internship (Business Enterprise)	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	インターンシップ（企業）は、学生自身がインターンシップ活動を通して社会と教育に関わる中で、積極的に企業活動に従事し、様々な問題に前向きに取り組もうとするインターンシップ精神を身につけることを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	経営、生産管理、マーケティング、財務活動、経営計画	学修教育目標	インターンシップ活動に参加し、インターンシップについて理解することができる。 社会での企業活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。			
-------	---------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

学生が社会にでるまえに職業体験をするインターンシップ制度がある、その中で企業活動などの会社で実習するインターンシップである。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

インターンシップはボランティアと関連があるが、知識習得の目的のインターンシップと知識・技術を提供するボランティアと識別すべきだ。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブドブック			
なし			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	組織の役割や活動を理解する。				○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	組織で働く上で、仕事を上手に進めるための礼儀作法が理解できる。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	情報通信技術を用いた新たなコミュニケーションの重要性が理解できる。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	組織の一員として働くルールを知り、社会に貢献する仕事の進め方が理解できる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に毎回出席する。				○
	② 働きかけ力	グループワークで問題を発見する。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	課題演習でどこに問題があるか創造する。				○
	② 傾聴力	グループワークで他の学生の意見を聞く。				○
	③ 柔軟性	グループワークで問題に突き当たった時に発想を柔軟にする。				○
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	授業に休まずに出席できる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	職業倫理の考えを理解する。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
インターンシップは、ただの職業体験ではなく、様々な形態が存在しているのでその選択肢の中から自分にあったインターンシップを見つけることを目指す。					自分の目的に合わせて参加するインターンシップを選ぶ。ただ参加するだけでは時間の無駄になってしまうので自分の目的をしっかりと明確にしてから参加するインターンシップを選ぶようにする。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導（オリエンテーション）	座学	実習先へインターンシップ実習の受け入れについて依頼する	90
第2回 /	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第3回 /	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第4回 /	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第5回 /	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第6回 /	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第7回 /	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第8回 /	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第9回 /	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第10回 /	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第11回 /	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第12回 /	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第13回 /	実習（12）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第14回 /	実習（13）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第15回 /	事後指導	座学	事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	ボランティア実習 Volunteer Training	2単位	選 択	実 習	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	ボランティア実習は、学生自身がボランティア活動を通して社会と関わる中で、積極的に福祉活動に従事し、様々な福祉問題に前向きに取り組もうとするボランティア精神を身につけることを目的とする。					
	キーワード	有償ボランティア、地域通貨、少子高齢化、アメリカのボランティア	学修教育目標	ボランティア活動に参加し、ボランティアについて理解することができる。社会での活動を通じて、大学で学ぶ専門的な知識や技術をより実践的に修得し、社会人基礎力におけるそれぞれの能力要素を伸ばすことができる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

日本の社会が複雑になり、多くの社会問題が出現した。今までのように公的な援助でこの問題が解決できない、新しいボランティア制度を作りこの問題を解決する必要がある。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

インターンシップはボランティアと関連があるが、知識習得の目的のインターンシップと知識・技術を提供するボランティアと識別すべきだ。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。					○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	毎回の課題によるグループディスカッションには必ず発表する。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。					○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	ボランティアを行うことで、社会に貢献する力を身につける。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に毎回出席する。				◎
	② 働きかけ力	グループワークで問題を発見する。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	課題演習でどこに問題があるか創造する。				○
	② 傾聴力	グループワークで他の学生の意見を聞く。				◎
	③ 柔軟性	グループワークで問題に突き当たった時に発想を柔軟にする。				◎
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	授業に休まずに出席できる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	CSRの考えを理解する。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ボランティアにつき理想的に理解していること。					ボランティアにつき標準的に理解していること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導（オリエンテーション）	座学	実習先へボランティア実習の受け入れについて依頼する	90
第2回 /	実習（1）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第3回 /	実習（2）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第4回 /	実習（3）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第5回 /	実習（4）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第6回 /	実習（5）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第7回 /	実習（6）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第8回 /	実習（7）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第9回 /	実習（8）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第10回 /	実習（9）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第11回 /	実習（10）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第12回 /	実習（11）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第13回 /	実習（12）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第14回 /	実習（13）（実習先での活動） 活動日誌	実習	日々の記録（活動日誌）作成	90
第15回 /	事後指導	座学	事後レポートの作成、活動日誌のまとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	わかるビジネス英語（ビジネス編） Useful English (Business)	1単位	必修	演習	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	働くという環境において、インターネットの発達により国内・国外という境目が消えつつあります。Email やLINE を駆使し、グローバルに働くことを想定しながら、ビジネスのコミュニケーションの道具として英語を使い切ることを目指します。					
	キーワード	ビジネスシーンにおけるコミュニケーション能力の向上	学修教育目標	ネイティブが日常的に使う英語に慣れ親しむことにより、あらためて英語を言葉として認識し、抵抗感を払拭してもらいたい。日米をはじめとする海外とのビジネススタイル、価値観の違いをも知ってもらいたい。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
予習復習においてイメージトレーニングを心掛けること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
特になし。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：You're Welcome! 著者名：工藤 多恵 出版社：セнгеージラーニング株式会社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	人知性、教養を身につけ社会に貢献できる				○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。	英語が要求される場面で、学修した基礎的な英語力を駆使して意志の疎通ができる。				○
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	異文化を正しく理解し、尊重して生活することができる。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。	専門的な知識・技能を有し、実践できる				○
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	幅広い視野をもって多角的に物事を評価・判断できる				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	自己の人生を充実させるために学び続ける意義を身につける				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。				◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。				○
	③ 実行力	自主性をもつ。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力				◎
	② 計画力	段取りを考える。				○
	③ 創造力	新しいものを作る。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識				◎
	② 傾聴力	集中力と考える力				◎
	③ 柔軟性	意味の多面性				○
	④ 状況把握力	臨機応変				◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。				○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		45				5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20				5	45
	技能に関する評価		10		5					15
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		20					40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自らコミュニケーションの機会をつくる。					コミュニケーションに興味をもつ。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 英語とビジネスの関係 - 授業の受け方・学習の仕方について	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第2回 /	Unit 1 Fore here、 or to go?	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第3回 /	Role Play	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第4回 /	Reading	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第5回 /	Unit 2 How many are in your party?	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第6回 /	Role Play	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第7回 /	Reading	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第8回 /	Unit 3 I'll be back.	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第9回 /	Role Play	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第10回 /	Reading	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第11回 /	Unit4 Would you like me to heat this up?	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第12回 /	Role Play	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第13回 /	Reading	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第14回 /	Unit5 Your total comes to 3240 yen.	演習	予習を必ず各自で行い解答文を作成のこと	予習 60 復習 30
第15回 /	Role Play	演習	試験準備学習について	予習 60 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 キャリア形成科目	わかるビジネス英語（日本文化編） Useful English (Japanese Culture)	1単位	必修	演習	3年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	ヨーロッパ・アメリカだけでなく中東でも日本文化への興味が非常に高まっており、外国メディアへの日本文化の紹介が劇的に増えている。その多様な文化露出の中で英語が、実際の国際共通語としてビジネスにも多用されています。異文化、英語を通じて、自らの文化を知ることがビジネスを円滑に進める道具となることを再確認する。					
キーワード	国際コミュニケーション能力	学修教育目標	ヨーロッパ・アメリカだけでなく中東でも日本文化への興味が非常に高まっており、外国メディアへの日本文化の紹介が劇的に増えている。その多様な文化露出の中で英語が、実際の国際共通語としてビジネスにも多用されています。異文化、英語を通じて、自らの文化を知ることがビジネスを円滑に進める道具となることを再確認する。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
必ず予習・復習をおこなうこと。 インターネットを駆使すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
特になし。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：Real-time Japan in Basic English 著者名：JACET Teaching Materials SIG 出版社：朝日出版社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	企業におけるビジネスの仕組みと役割を理解する力を身につける。	心豊かな人間になる。				○
②	デジタル経済を視野に入れ、その知識と技能を身につける。					
③	国際理解・異文化理解ができる知識と技能を身につける。	視野を広げる。				○
④	ビジネスデータを利活用できる課題解決力を身につける。					
⑤	情報通信技術を活用する新しいビジネスを生み出す力を身につける。	専門性に誇りをもつ。				○
⑥	知性、教養をもって多様な人々と関わり、社会に貢献する力を身につける。	異なる地域や時代の人々の思考・感覚を理解し尊重して生活することができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人間に好奇心をもつ。				◎
	② 働きかけ力	話題に興味をもつ。				○
	③ 実行力	自主性をもつ。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	注意力				◎
	② 計画力	段取りを考える。				○
	③ 創造力	新しいものを作る。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識				◎
	② 傾聴力	集中力と考える力				◎
	③ 柔軟性	意味の多面性				○
	④ 状況把握力	臨機応変				◎
	⑤ 規律性	相手の立場を思う。				○
	⑥ ストレスコントロール力	癒しをつくる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	法とマナー				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	20			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	5		5			5	35
	技能に関する評価					5				5
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20	5	5	10			5	45
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日本のビジネス文化やマナーに関して深く理解する。 文化的な違いを考慮して、適切なコミュニケーションをとることができる。					コミュニケーションに興味をもつ。 日本の文化やマナーに関して自信を持って説明することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション Unit 1 Starter: Reflection & Goal Setting 日本のことを英語で伝えるために	オリエンテーション・講義	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第2回 /	Unit 2 Greetings and Manners 日本式挨拶とマナー 動詞の種類：文型	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第3回 /	Unit 3 Seasonal Events in Japan 日本の四季と行事 文法：文の種類	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第4回 /	Unit 4 Popular School Events 人気のある学校行事 文法：時制と相	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第5回 /	Unit 5 Eating in Japan バリエーションに富む日本の食事 文法：助動詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第6回 /	Unit 6 Sightseeing 日本の忍者は大人気 文法：名詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第7回 /	Unit 7 Ancient Agriculture 伝統に根差した日本の農業 文法：準動詞：不定詞・動名詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。 Unit 1-7 の復習を行う	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題・小テスト			
第8回 /	Unit 8 Politics 日本の政治の仕組み 文法：能動態・受動態	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第9回 /	Unit 9 Economy 時代を映す日本経済 文法：接続詞：等位接続詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第10回 /	Unit 10 Sports 大会を盛り上げるサポーター 文法：接続詞：従位接続詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第11回 /	Unit 11 Changes in Japanese Sports 日本人が好きなスポーツ 文法：比較：原級比較	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第12回 /	Unit 12 Favorite Places to Visit お勧め観光地 文法：比較級・最上級	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第13回 /	Unit 13 Japanese Cooking 日本食は「うまみ」が決め手 文法：関係：関係代名詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第14回 /	Unit 14 Japanized Foreign Culture 日本化した外国文化 文法：関係：関係副詞	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	授業前には新出単語の意味を調べ、授業で行う箇所に目を通しておく。授業後、得た知識、復習した文法を必ず確認する。テキスト、単語を音読する。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			
第15回 /	Unit 15 Project: Treasure of Japan 日本の宝物を紹介しよう	学生によるスピーキング・リスニング・ライティングの演習を基本として、授業を展開する。	Unit 1-15 の総復習を行う。	予習 60 復習 30
	授業への取り組み・課題			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。